

右御調査方御願申上度如斯御座候也

昭和十八年十二月十六日

赤十字國際委員會

駐日代表部

敬 具

俘虜情報局、御中

辭ノ訳 文

濠洲赤十字代表(將校待遇)ヲ濠洲陸軍ハ配屬ヲ受託セシ証明書

リッチャードピケットファイリツプス

右者ハ濠洲赤十字代表トシテ濠洲陸軍ニ服務スル事ヲ受託セラレタルモノナリ

リッチャードピケットファイリツプスハ動員身体検査規定(指令)ニ基キ身体検査ヲ受ケ第

一種ニ類別セラレタル事ヲ証明ス

(濠洲陸軍軍医 二名)

受託ニ関スル條件左ノ如シ

一 濠洲政府ハ俸給及手當ヲ支給セズ

二 一部隊(其ノ他)ニ配屬セラレタル場合ノミ代表ニ對シ無料宿泊給與ヲ提供スルモノト

ス

三 濠洲陸軍ト關係アル事ニ依リ旅行行動スル場合ニ限り無料輸送ヲ提供(出立得レバ)ス

ルモノトス

四 作戦区域内ニ於テハ銃兜及對カス器具以外ノ個人用器具ハ支給セザルモノトス

五 陸軍支配区域内ニ於ケル行動ハ其ノ時ノ状態及同区域指揮官ノ命ニ依ルモノトス

六 赤十字代表ハ濠洲陸軍ニ配屬セラレタル期間ハ將校待遇ヲ與ヘルモ陸軍ノ階級ヲ與ヘズ

七 陸軍將校用服装ニ着用スル事ヲ得ルモ政府ハ之ヲ支給或ハ之ガ購買手當等ヲ支給セズ

陸軍用帽子、カラー及階級章ヲ使用スル事ヲ得ズ

八、濠洲陸軍ニ従軍スル期間ハ代表ハ陸軍法規（法則）ニ従フモノトス
 九、代表ハ濠洲陸軍ニ服務スル期間ハ無料診断若療ヲ受クル事ヲ得
 十、代表ニシテ海外派遣濠洲陸軍ニ配属日従軍服務スル者ハ送還特典ニ関シテハ一般濠洲陸
 軍兵ト同一ナル事情ノ下及範圍（程度限度）ニ依リナサレルモノトス
 十一、濠洲政府ハ上記記載事項以外ノ事ニ関シテハ金銀上其他如何ナル責任又ハ義務ヲ負担セ
 ズ
 以下年月日、場所、赤十字代表、證人、濠洲陸軍關係員名本人ノ身長、体重、頭髮、眼
 色、年令、住所、近親者及寫眞等ナリ

俘情第六号ノ四八

朝鮮俘虜收容所ニ在ル濠洲赤十字社員ニ関スル件回答

昭和十八年十二月二十四日

俘虜情報局長官

赤十字國際委員會駐日代表殿

参照第一五九号來照首題ノ件該社員ハ赤十字條約第十條ニ該当スルモノトシテ同條約第九
 條ノ人員ト同様ニ取扱フヘキモノトス仍テ帝國ニ於テハ之ヲ俘虜收容所ニ抑留シアルモノ
 ニシテ目下其ノ取扱ヲ変更スルノ要ヲ認メズ

俘情第六号ノ四七

貴所收容俘虜ノ取扱ニ関スル件回答

昭和十八年十二月二十四日

俘虜情報局長官

朝鮮俘虜收容所長殿

十二月九日附朝俘第三三七号通牒首題ノ件諒承ス然ルニ該俘虜ニ関スル貴所ヨリ赤十字國
 際委員會駐日代表宛ノ回答ニ基キ該代表ヨリ同俘虜ノ解放方当局宛申請シ來レルニ付別紙
 寫ノ通回答シ之ヲ拒絶シ置ケリ尚同俘虜ノ取扱ニ関スル根據法規左ノ通ニ付念ノ為

一昭一七、一、二陸軍密第一八七号停虜ノ取扱ニ関スル件第三号（停虜ニ関スル諸法規類聚五九頁）

二昭一八、四、一大陸軍第五〇〇号敵國衛生人員並ニ敵法者等ノ給與ニ関スル件第一号及第四号（停虜ニ関スル諸法規類聚六〇頁）

但シ右ニ依レハ該停虜ノ相当階級ハ軍司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ定ムベキ所貴所ニ於テハ大尉待遇ヲ與ヘアル模様ナルモ実情承リ度

ニ赤十字條約第十條（停虜ニ関スル諸法規類聚一一八頁）

居普通第七二三号

昭和十八年九月二十二日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公枝

停虜情報局長官殿

宗戰ニ從フ停虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件

本件ニ関シ在露府赤十字國際委員会ヨリ別紙訳文ノ通停虜又ハ抑留者タル敵法者ニ対シ外出許可等特別ノ便宜供與方申出アリタル処本件実施ニ付テハ困難ナル問題アルヘキモ同委員会申出不取敢一應傳達申進ス右ニ関シ何等御意見ミアラバ御回示相成度

宗戰ニ從フ停虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件

（一九四三年七月十四日附赤十字國際委員会宛外務大臣宛書翰）

赤十字國際委員会へ同僚拘禁者ノ精神的要求ニ奉仕スル總エル宗敵ノ停虜又ハ抑留者ノ地位ニ関シ交戦各國ノ注意ヲ喚起致シ度右ハ従軍僧又ハ事實上之ト同一ノ職務ニ從フ者ヲ指スモノナリ

拘禁者ノ多クハ拘束既ニ三年ニ及ヒ斯ル長期ニ亘ル監禁又ハ抑留ノ結果トシテ停虜特ニ抑

留者ノ間ニハ意氣阻喪ノ風看取セラル右ハ長期間ノ收容俘虜ヲ中立國ニ收容スルニ関スル
 協定案未タ成立ニ至ラザルガ為殊ニ著シキモノアリ 俘虜及抑留者ノ精神的救助ヲ要スル
 コト今日ノ如ク急ナルハナク、而シテ彼等ハ彼等ト共ニ拘留セラレ居ル心靈ノ指導者ノ中
 ニ斯ル救助ヲ豫期シツ、アリ、然レドモ之等聖職者(Minister of religion)ニラシテ其任務
 ヲ遂行セシムルニハ彼等カ外部トノ接触ニ依リ其精神力ヲ新ニスル為一定程度ノ自由ヲ享
 受セシムル事甚ダ望マシキコトナリトス
 列國ノ多クハ既ニ醫師及收容所内ニテ医務ニ従事スル職員ニ對シ或ル程度ノ便宜ハ例ヘバ
 規則的外出、近親トノヨリ頻繁ナル通信又ハヨリ豊富ナル給食等)ヲ供與シ居レリ、若シ
 同僚俘虜又ハ抑留者ニ對シ宗派ノ如何ヲ問ハス聖職ノ任ニ當ルモノニ對シ此種便宜特ニ一
 定條件ノ下ニ外出ヲ許可セラル、コト、モナラバ赤十字國際委員會ノ甚ダ幸トスル所ナリ、
 戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル一九二九年七月二十七日ノ壽府條約ハ放
 法者ニ對シ特典的待遇ヲ與フルニ関シ衛生部員ニ準セシメ居ルコト御承知ノ通ナリ

赤十字國際委員會ハ右提案カ日本政府ニヨリ好意的ニ考慮セラレ同委員會ヲシテ之ガ実施
 ノ為收容所ノ取締規定ニ抵触セサル範圍ニ於テ可能ナルヘキ措置ヲ執ルノ途ヲ開カシメラ
 レンコトヲ切望シテ熄マズ

本書ハ英國及同各自治領、独、伊、米各國ニ送附セラレタリ

俘虜第二七一号ノ五

宗職ニ從フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件回答

昭和十八年十月二十二日

俘虜情報局

外務省在敵國居留民關係事務室御中

九月二十二日附居普通第七二三号來照ノ件俘虜又ハ軍抑留者タル宗教關係者ヲ他ノ俘虜又
 ハ軍抑留者ト區別シテ取扱フコトハ曰下考慮シアラズ

WCTM 11051-1

putting

停罰第七號

在朝鮮英國人俘虜ノ所罰ニ関スル件回答

昭和二十年七月十九日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使殿

七月六日附居普通第三三五號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

俘虜軍曹 John Henry Sifford 及俘虜兵 John Branghton ハ共謀ノ上賞書

ニ背キ逃走ヲ企圖シ逃走間ニ必要ナル糧食ヲ窃取シタル上逃走シタルモノニシテ天々國內法規ニ基キ懲役六年及五年ノ刑ニ服役中ナリ尚勞働ハ刑務所ニ於ケル各種作業ナリ

一九四五年六月二十二日附外務省宛在駐日瑞西公使館口上書假譯

瑞西國公使ハ英國政府ニ於テハ赤十字國際委員會ノ報告ニ依リ朝鮮收容所ニ於テ俘虜數

名カ所罰セラレタルコトヲ了知セル旨帝國外務省ニ通報スルノ光榮ヲ有ス石存房トハ即チ
 軍曹「ジヨン、ヘンリー、グリフィス」 John Henry Griffiths 及兵卒「ジヨン、
 ブロウトン」 John Broughton ナルカ天々六年及五年ノ強制労働ニ處セラレ
 タリ英國政府ハ右所罰ニ付何等公式ノ通告ニ接シ居ラサル旨ヲ速ヘ本件ニ関スル詳報入手
 方希望シ居レリ本公使館ハ外務省ニ付シ H Griffiths 及 Jack Broughton
 ノ名カ情報局「リスト」 CM/5 及 CM/6 ニ掲記セラレ居ルコトヲ為念通知ス前記存房
 ハ右兩名ト同一人ナルヘシ
 右英國政府ノ照會ニ付スル回答振何分ノ俄御通報相煩度此致依頼旁本公使館ハ茲ニ重ネテ
 外務省ニ何ツテ敬意ヲ表ス

Guid of 11051-1

一九四四年九月九日附瑞西國公使館口上書 C. C. 1. 1. 47. M G O 訳文

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ付シ英國政府ニ於テハ瀛洲人存房ニ名一九四二年夏西貢ニ於
 テ斬首セラレタルヤノ獄信據スハ、筋ヨリ聞込ミソル旨申越タレコトヲ通報スルノ光榮ヲ
 有ス 石存房ノ名ハ「バクスター (Baxter)」及「カソシディ」(Cassidy)ナルヤノ
 趣ナルカ倫敦政府ハ其ノ階級及登録各號ヲ知ラサルヲ以テ之ヲ確認スルコトヲ得ス
 英國政府ハ公使館ニ付シ前記存房ノ訴訟ハ右シアリタリトスレハ、及処刑ニ関シ通知ヲ受
 ケサリシ事良ニ肉シ日本國政府ノ注意喚起方依頼越シタリ、同政府ハ存房ノ待遇ニ関スル
 一九二九年七月二十七日ノ壽府條約ノ違反ヲ強ク非難セリ
 依テ英國政府ハ右ニ関スル釋明ト存房兩名ヲ確認シ得ルニ必要ナル情報ヲ要求ス
 公使館ハ外務省ニ付シ主務官廳ノ回答ノ回答通達方ヲ依頼シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

一九四四年九月九日

一九四五年二月二十一日附外務省宛瑞西公使館口上書 Ce 一・七・四七 Ffd 假譯

客年九月九日附及十一月十五日附口上書ヲ以テ瑞西公使館ハ帝国外務省ニ對シ英國政府ハ一九四二年夏豫州俘虜二名西貢ニ於テ斬首セラレタル旨知悉セル趣通報スルノ光榮ヲ有シタリソノ氏名ハ「バクスター」及「カシディ」ナルヘシ

前記口上書ニ於テ英國政府ハ帝國政府ハ本件俘虜ノ審理並ニ處刑ニ関シ何等通告スル處ナカリシヲ不當トスルト同時ニ彼等死刑ニ関シアラエル有益ナル情報ヲ受領センコトヲ要望セリ

本日ニ至ル迄回答ノナキ處公使館ハ本件ニ関シ帝国外務省ノ好慮アル注意ヲ喚起セント欲ス實ニ本件ニ関シ英國政府力出未得ル限り速カニ要求セル情報入手ヲ所望セルコト三回ニ亘レリ

公使館ハ本件ニ関シ帝国外務省ノ懇篤ナル仲介ニ對シ豫メ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ此ノ機會ニ於テ重ネテ茲ニ敬意ヲ表ス

7
俘虜才一〇號

刺殺俘虜ノ狀況通報相成度件

昭和二十年四月二十四日

俘虜情報局長官

泰俘虜收容所長殿

今敝敵側ヨリ左記俘虜ノ死亡理由ニ関シ照會アリタルヲ以テ同俘虜ハ逃走抵抗等ニ依リ刺殺セラレタルモノナリヤ或ハ逮捕後刑法ニ依リ死刑ニ處セラレタルモノナリヤ或ハ其ノ他ノ事情ニ依ルモノナリヤ等之ガ狀況ニ関シ通報相成度

左記

刺殺年月日	收容所名	国籍	階級	氏名	認識票番号
昭和十七、七八	泰俘虜收容所	英(遠)	陸軍砲兵伍長	バクスター、カシディ	八五六六二八
〃	オーストリア	〃	〃	キヤシディ、ビー	一四二七三七六

居普通第一號

昭和二十年一月六日

外務省在敵國居留民肉係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官 殿

函館俘虜收容所ニ於ケル英國人俘虜処罰ニ関スル件

去ル八月二十八日瑞西國公使代表函館俘虜收容所訪問ノ際英國航空兵軍曹「ハリツゲ」処罰ノ件ヲ聴取セル趣ヲ以テ英國政府ヨリ同人ノ刑罰軽減方ニ関シ左記要旨ノ申出アリタル旨在京瑞西國公使館ヨリ申越アリタルニ付委細右ニテ仰了知ノ上何分ノ嚴御回示相煩度

記

去ル八月二十八日瑞西國公使代表函館俘虜收容所訪問ノ際主務当局ヨリ航空兵軍曹ハリツゲ (Burridge) 日本人監視ニ對スル不従順ノ麻ニヨリ禁錮五年ニ処セラレタル旨聴取セル趣ノ處英國政府ハ右判決ノ通告及本件ニ関スル情報ヲ與ヘサリシ事實ニ對シ帝國政府ノ

注意ヲ喚起シ度シ尙英國政府ハ右刑罰ハ一見苛酷ニ過クルモノト認メラルルニ付其ノ軽減方ヲ希望スルト共ニ本件ニ関スル凡テノ説明ヲ要請ス

又英國政府ハ凡テノ俘虜ニ對シ一九一九年七月二十七日ノ俘虜待遇ニ関スル海府條約第六

ヲ主張ス

ニ関スル件

俘虜情報局長官

Get 1802 J + K
give numbers

Handwritten signature

鈴木公使 殿

二月六日付貴館居普通第一號ニ係ル旨趣ノ件帝國ノ俘虜待遇條約運用ニ関シテハ既ニ屢次

居普通第一號

昭和二十年一月六日

外務省在敵國居留民内係事務室

鈴 木 公 使

WCT Due 11051 K
1802 K

俘虏情報局長官 殿

函館俘虏收容所ニ於ケル英國人俘虏処罰ニ関スル件

去ル八月二十八日瑞西國公使代表函館俘虏收容所訪問ノ際英國航空兵軍曹「バリツゲ」処罰ノ件ヲ聴取セル趣ヲ以テ英國政府ヨリ同人ノ刑罰軽減方ニ関シ左記要旨ノ申出アリタル旨在京瑞西國公使館ヨリ申越アリタルニ付委細右ニテ御了知ノ上何分ノ嚴御回示相煩度

記

去ル八月二十八日瑞西國公使代表函館俘虏收容所訪問ノ際主務当局ヨリ航空兵軍曹「バリツゲ」(Bartridge)日本人監視ニ對スル不従順ノ麻ニヨリ禁錮五年ニ処セラレタル旨聴取セル趣ノ處英國政府ハ右判決ノ通告及本件ニ関スル情報ヲ與ヘサリシ事實ニ對シ帝國政府ノ

注意ヲ喚起シ度シ尙英國政府ハ右刑罰ハ一見苛酷ニ過クルモノト認メラルルニ付其ノ軽減方ヲ希望スルト共ニ本件ニ関スル凡テノ説明ヲ要請ス
又英國政府ハ凡テノ俘虏ニ對シ一九一九年七月二十七日ノ俘虏待遇ニ関スル海峽條約第六十條乃至第六十七條ノ規定ノ適用セラレン事ヲ主張ス

俘虏第一號

函館俘虏收容所英人「バリツゲ」ノ處罰ニ関スル件

回答

昭和二十年一月十三日

俘虏情報局長官

外務省在敵國居留民内係事務室

鈴 木 公 使 殿

一月六日付貴館居普通第一號ニ係ル首題ノ件帝國ノ俘虏待遇條約運用ニ関シテハ既ニ屢次

ニ亘リ帝國政府ヨリ英國政府ニ対シ表明シ来リタル所ナルヲ以テ回答ノ要ナキモノト認ム
但シ事件ノ概要ハ左記ノ通りナルヲ以テ参考迄ニ通報スルモ可ナルヘシ

元 記

英國俘虜「ハリツチ」ハ昭和十八年二月十五日函館俘虜收容所ニ於テ監視人ニ對シ同人カ
俘虜監視人ナル事ヲ認識セルニ拘ラス暴行ヲ爲シ軍法會議ニ附セラレテ處罰セラレタルモ
ノニシテ相手國ヨリ容喙サルヘキモノニアラス

End of
wet doc 11651 K



居普通第二六號

昭和二十年一月十五日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木 公 使

俘虜情報局長官 殿

元香止銀行理事長「グレーバーン」ノ取扱ニ関スル件

本件ニ関スル外務省發在京瑞西國公使館宛公文御参考迄別紙送付ス

居普通第一八号

口 上 書

帝國外務省ハ元香止銀行理事長「ウーヴアンデラーグレーバーン」ノ死亡ニ関スル
英國政府ノ通報ニ関スル在京瑞西國公使館ノ七月二十四日付 GGハ、四四、一七、Ffi号口上
書ヲ受領シ取調ノニ左記ノ通り河公使館へ回答シ之ヲ英國政府ニ轉報方依頼スルノ光榮ヲ有ス

昭和二十年一月十五日

一、英國政府ハ、サー・グレーバーンレカ事件決定ニ至ルニヶ月餘ノ期間勾留セラレタリト稱シ抗議ヲ申出テタル處香港占領地總督部軍律會議カ同人外ニ名ヲ軍律違反トシテ勾留シタルハ昭和十八年四月十三日、檢察官取調ノ結果審判請求ヲ爲シタルハ同年五月二十四日ニシテ監禁三箇月ノ審判宣告アリタルハ同年六月三十日ナリ其ノ間ニヶ月半余ヲ経過セルモ右ハ、慎重調査取調ニ要シタル時日ニシテ帝國政府ニ於テハ右期間ノ経過ヲ以テ不當ノ延滞アリタリトハ認め得ス。

二、英國政府ハ、サー・グレーバーンレノ死トハ帝國官憲ニ對スル待遇ニ依ルト主張スル所勾置人及在監者ニ對スル給養ハ當該規定ニ準據シ國籍ノ別ナク一様ノ取扱ヲ爲シ居ルモノナルカ同人ニ對シテハ生活様式及食物等東洋人ト異ルヘキヲ慮リ憲兵隊拘引当初ヨリ香港總督部外事務ノ幹施ニ依リ特別ノ取計トシテ引續キ營養食料、「グイタミン」劑及藥品類ハ差入ヲ許可シ其ノ健康ヲ保持セシムル爲格別ノ配慮ヲ加ヘアリタル次第ニシテ

帝國官憲ノ同人ニ對スル斯ル好意的待遇ニ應スルモ同人夫人カ送付セル「イタミン」劑ノ服用ヲ故ラニ妨クルカ如キハ到底有り得ベカラサルコト明瞭ナリ

三、英國政府ハ、サー・グレーバーンレノ死後數日ヲ経タル遺骸ヲ抑留所ヨリ「グレーバーンレ夫人ニ返還セラレタリト主張スルモ之亦事實ニ反ス同人ハ昭和十八年八月二十一日（土曜日）死トシ其ノ遺骸ハ翌二十二日（日曜日）抑留所當局及抑留者代表ヲ経テ夫人ニ引渡サレタルモノナリ

四、而シテ其ノ際同夫人ニ交付サレタル品目ハ別紙記載ノ通合計七十五点ニシテ「グイタミン」劑、錠劑ヲ「グレーバーンレ」ニ與ヘスシテ封緘ノ儘夫人ニ返還シタルカ如キ事實ナシ刑務所其ノ他ノ官廳ニ於ケル私品ノ取扱ハ極メテ嚴重ニシテ受刑者ノ出所又ハ死亡等ノ際返還スル物品ニ付テハ後日ノ紛争ヲ避クル爲細大洩ナク品目ヲ記載シ受領者ノ照會點檢ヲ求メ相違ナキヲ確メシメ其ノ書類ヲ保管スルモノニシテ領收證ニ記載シタルモノ以外ノ物品ハ收受セラレタル次第ナリ尚當時ノ抑留所係官ハ取渡品目表ト現品ト符合セサリ

シ例ハ當テナキ旨言明シ居レリ

五之ヲ要スルニ英國政府ノ本件抗議ハ其ノ抗議書ニ記載セラルルカ如ク赤十字國際委員會
其ノ他ノ信賴スヘキ機關ヨリノ情報ニ非ス其ノ弊カラサル部分ハ想像ト揣摩臆測ニ基ク
モノニシテ全ク根據ナク從テ帝國政府ニ於テハ之ヲ受諾スルコトヲ得ズ (以上)

條三普通ニ六一號

昭和十七年三月二十日

外務次官

俘虜情報局長官 殿

英國政府ヨリ俘虜及抑留者發受ノ書翰送達業務設置方申出ニ関スル件

本件ニ関シ今般本部ニ於ケル英國ノ利益代表國タル「アルゼンチン」國ノ在京代理大使ヨ

リ別添写ノ通、三月二日附書翰ヲ以テ申出アリタルニ付右書翰(別紙甲號)並ニ訳文(別
紙乙号)茲ニ送付ス

追而英國側書翰送達業務設置ノ提案ハ一方曰水國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜
及抑留者發受ノ書翰ヲ他方ハ英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜發受ノ書翰ヲ目的トシ
英帝國內ニ抑留セラレ居ル邦人發受ノ書翰ヲ取り上ケ居ラス甚タ先方ニノミ都合ヨキ提
案ナルニ付別紙(丙號)通回答シ置キタリ

乙 號

三月二日附在京「アルゼンチン」國大使来翰訳文

以書翰格上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ貴大臣ニ對シ左ノ通り通報スルノ光榮ヲ
有シ候

英國政府ハ日本國政府カ相互互讓ノ基礎ニ於テ日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜

並ニ抑留者発受ノ書翰及英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜発受ノ書翰ノ蘇聯邦經由送達
ノ爲ノ業務設置ニ協カスルノ意嚮アリヤ否マニ付テノ情報ヲ要清シ居レリ
本件業務ハ萬國郵便條約第四十九條所定ノ條件及俘虜ノ待遇ニ干スル壽府條約ノ條件ニ從
ヒ進行セラルベキモノナリ

蘇聯邦当局ハ國際郵便規則ニ從ヒ書翰送達ニ完全ニ協カスルノ用意アルモ本経路ニ依ル小
包ノ送達ハ出来サル旨指摘セリ

俘虜ニ干スル「ザンテイ」情報局 (The Xanthi Bureau of Information) ノ発
受又ハ仲介スル書翰モ又本業務ニ合マルルモノトス

日本当局ハ抑留者及俘虜ノ居住スル收容所宛名ヲ發表スル迄右收容所ニ書翰ヲ転送スル爲
日本國ニ於ケル情報局ノ宛名ヲ通報セラレタシ、日本國政府カ右ヲ希望セララルルニ於テハ
英國当局ノ設置セル「ザンテイ」情報局ノ宛名ヲ通報致スヘシ
本便ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬 貝

八八内

丙 号

條三普通才一六號

以書翰啓上致候陳者本年三月二日附貴翰付才二十五號ヲ以テ御申越ノ趣敬承スルノ光榮ヲ
有シ候

英國政府ノ書翰發送業務設置ノ提案ハ一方ニハ日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘
虜及抑留者発受ノ書翰ヲ他方ハ英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜発受ノ書翰ヲ目的トシ
英帝國內ニ抑留セラレ居ル邦人発受ノ書翰ヲ含ミ居ラヌ相互ノ利益ニ付全ク權衡ヲ失シ居
ル提案ト認メララル以テ帝國政府ハ右提案ヲ此儘受諾スルコト能ハサルニ付右ノ趣英國政
府ニ御傳達相成度候

本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬 貝

昭和十七年三月二十日

外務大臣 東郷 茂 徳

臣爾然丁共和國臨時代理大使

ト、エラスト、エム、グイリヤ、貴下

俘虜第五號ノ七

俘虜郵便ニ関スル件

昭和十八年二月二十二日

俘虜情報局長官

外務 次官 殿

二月十八日附居普通第一三三八號來照首題ノ件左記ノ如ク加奈陀政府ニ傳達方相煩度

記

一、イグリンスホルムニ號ヨリ送達セラレタル俘虜宛ノ郵便物ニシテ十一月ニ本人ニ入

手ニ得タルハ之カ檢閲並ニ再送ニ要セシ最小限ノ時間ナリ此最小限ノ時間ヲ以テ本人ニ
手交セラレタル帝國ノ努力ニ對シテハ加奈陀政府ハ莫ニ感謝スヘキナリ

ニ 尚迅速ニ送達スル爲爾今俘虜宛郵便ハ左ノ件ヲ遵守センコトヲ要望ス

ノ 字数ヲ制限シ用件ノミヲ簡單ニ記述スルコト

ズ 字体ヲ明瞭ナラシムル爲「タイプライター」等ヲ使用スルコト

ヨ 宛名ハ俘虜情報局宛付トセス俘虜收容所宛トスルコト

タ 俘虜宛郵便行囊ニ俘虜及拘留者以外ノ着宛郵便物混入セシメサルコト

カ 爲シ得レハ檢閲ヲ容易迅速ナラシムル爲日本文ヲ使用スルコト

居留第一三八號

昭和十八年二月十八日

在敵國居留民肉係事務室

鈴 水 公 便

俘虜情報局長官殿

在香港加奈陀人俘虜ニ對スル郵便物配布ニ關スル件

加奈陀利益代表タル瑞西國公使館ヨリ今般一月二十三日附口上書ヲ以テ別紙譯文ノ通申越シタルニ付テハ委細右ニテ御了悉相成本件回答振ニ就キ御意向御回示相煩度此般申進ス

CC. 一五五 leg

一九四三年一月二十三日

在京瑞西公使館發日本外務省宛口上書

八九内

在京瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ其ノ平素御好意ニ信處シ左記事情ニ付御依頼スルノ光榮ヲ有ス

香港ニ於ケル加奈陀人俘虜カ母國ヨリノ郵便ヲ客年十一月ニ入り入手セル趣ヲ以テ加奈陀政府ヨリ該郵便物ハ交換給 (gipsholohin) ニテ送付セラレタルモノナルヲ以テ八月中ニハ既ニ配達セラレ居ルヘキモノナリト注意越セリ

加奈陀政府ハ此ノ郵便物遲延ノ理由並ニ十一月以降加奈陀人俘虜ニ宛テラレタル他ノ郵便物カ主務官憲ノ手許ニ到達セルモノアラバ之等ハ受信人ノ手ニ渡サレタルヤ否ヤ承知致シ度要望シ居レリ

就テハ瑞西公使館ハ右加奈陀政府ノ指摘セル諸點ニ對シ日本政府ノ明確ナル回答ヲ得ハ幸甚ナリ

瑞西公使館ハ日本外務省ニ向ツテ最高ノ敬意ヲ表ス

尾普通第七七三號

昭和十九年十一月二十五日

外務省在敵國關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

台湾ニ於ケル俘虜及柳着ノ通信ニ関スル件

今般在京田瑞国公使館ヨリ赤十字国際委員会代表者ノ台湾訪問ニ関スル報告ニ依レバ同地ニ在ル英國人俘虜ハ英國ヨリノ通信ヲ受取ルマデ十二月乃至十八日ヲ要シ本夕通信ヲ受取ラサル者サイアルニ付關係当局ニ対シ右促進方針願度々旨並ニ同俘虜及抑留者ハ大東亞地域ニアル其ノ家族トノ通信ニモ困難ヲ感シ居ル趣ヲ以テ英國政府ハ此等ノ者カ定期的ニ通信ニ得ル様希望ニ居ルニ付關係当局ニ対シ斡旋方針願度々旨申越ニタリ就テハ現在ノ交通状況ニ鑑ミ郵便物ノ送達ニハ幾多支障アルコト存スルモ前記事実ニ付一忘御取調相成

度尚御差支ナキ限り右要望ニ添フ様御取計相煩度依頼申進ス

俘通才五六一號

台湾ニ於ケル俘虜ノ通信ニ関スル件 回答

昭和十九年十一月二十八日

俘虜情報局

外務省在敵國居留民關係事務室 御中

首題ノ件ニ関シ曩ニ赤十字国際委員会ヨリ申越シアリ別紙ノ如ク通牒シ置キタルニ付参考
送付ス

英國人及和蘭人俘虜宛郵便物ニ関スル件回答

昭和十九年十月三十一日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

十月十九日附参照才五九七號ニ依ル首題ノ件左ノ通回答ス

記

一、日本内地 朝鮮及台湾ニ收容中ノ俘虜郵便物ハ現在定期的ニ到着シアリ
七月及八月ノ各一ヶ月ニ於ケル俘虜宛郵便受信通数左ノ如シ

(為参考)

函館俘虜收容所	三、五六八通	二、七〇五通
東京俘虜收容所	一、九六七通	八、三〇〇通
大阪俘虜收容所	四、〇三三通	六、二八七通

九〇。10

善通寺俘虜收容所	二、〇三六通	二、〇三六通
福岡俘虜收容所	八、一九二通	一、五三三三四通
朝鮮俘虜收容所	二、一五七通	一、二九五通
台湾俘虜收容所	六、八八五通	七、七三八通

二、善通寺及福岡俘虜收容所ニ於ケル英國人及和蘭人俘虜宛郵便物到着ノ不足ハ極僅少ノ一部分ノ看ニシテ其等ノ内多クハ日本軍占領地ニ家族ヲ有スル特殊事情アル者ナル故力
カル俘虜家族ニ対シテハ当局ヨリ現地関係機関ニ照會調査シ目下通信ノ圓滑ヲ期シアリ

參照才二三九號

一 日本ノ手中ニ在ル俘虜宛通信ニ内スル件

謹啓陳者外務省ハ本代表部宛一九四三年八月十日附書面ヲ以テ日本ノ手中ニアル俘虜及非
戦士員抑留者宛通信ニ内スル御通知ヲ致シ居ラレ申候即チ貴局又ハ外務省ヨリ名簿御通知
者ノ俘虜及抑留者ニ宛タル通信ハ必ず間違ヒ無ク其ノ收容所宛トシ未ダ名簿ノ送付ヲ受ケ
居ラサルモ日本側ニ收容中ト信ゼラレル者ニ對シテハ之ヲ必ず東京日本赤十字社宛送付致
ス可キ旨ノ御下命ニ接シ居申候

右ニ関シ香港代表アール・ジンデル氏ヨリ只今入手社英書面ニ依レバ香港ニ於テ俘虜力實
際ニ收容サレテ居ル個別的收容所名等不得故ニ前項ノ規定ハ香港ニハ通用セラレタルモノ
ト解釋致シ居矣以上ノ理由ニテ彼ハ香港ヨリ日本ニ收容中ノ俘虜宛通信ハ之ヲ日本赤十字
社宛付ト致ス可キモノト看做シ居申候

右事情ニ付香港代表ノ考ヘ居リ矣方法カ正當ナリヤ或ハ日本ニ於ケル收容所不明ノ俘虜宛
通信ハ之ヲ貴局宛御送附申事カ正當ナリヤ至急御回答給度此致及懇請申矣

昭和十九年二月十九日

赤十字國際委員會

駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘通第一三九號

俘虜宛通信ニ関スル件

昭和十九年三月十一日

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

貴局參照第二三九號ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答ス

俘虜情報局

一 俘虜宛通信ニ関シテハ貴部來意ノ如ク一九四三年八月十日付外務省ヨリノ通牒ヲ適用セラレ度香港ヨリ内地へ移管ノ場合ハ其都度赤十字國際委員會宛通報スルニ付貴部ヨリ香港代表へ移管俘虜名簿ヲ通報ノ上俘虜家族ニ傳達セラレ俘虜家族ヨリ新收容所宛通信ヲ直送スル如ク取計ラレ度

譯文

参照才三八八號

一 極東發米國行郵便物ニ関スル件

謹啓陳者壽府委員會ヨリ下記内容ノ電報ヲ入午仕矣即米國赤十字社ハ壽府委員會ニ對シ極東ヨリノ郵便物輸送ハ不活潑ナル旨通知致来リ申矣

北一四

故ニ壽府委員會ニ於テハ俘虜及拘留者カ差出入郵便ハ特種ノ用紙ヲ使用セバ或ハ輸送ヲ速カニシ且ツ輸送上便宜ナラシメサルヤヲ考慮致シ居矣

壽府委員會ハ右ニ對スル貴局ノ御意見御現シ被下矣ハ感謝ノ至リニ存矣而シテ本代表部宛御意見御通知被下矣ハ幸甚ノ至リニ存奉矣 申迄ニ然ク本代表ハ何時ナリトモ貴局係官ト右ノ提案ヲ御協議申上ル用意ヲ有シ申矣

尚ホ壽府委員會ハ右提案ハ日本政府ヨリノ提議ニ係リ在ベルン日本公使ヨリ傳達ナサレタル電信ニ関シ目下壽府ニ於テ考究中ノモノトハ全然別個ノモノナル旨申添居矣

昭和十九年六月十四日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘通第四七二號

東亞ヨリ米國宛ノ郵便物ニ関スル件回答

昭和十九年八月九日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

六月十四日参照第三八八號ニ係ル首題ノ件左記ノ通り回答ス

追テ「極東」ノ文字ハ使用セザルコト、ナリ居ル等ニ付為参考

記

帝國ノ管理スル俘虜及軍拘留者ノ差出ス郵便ハ其ノ標識明瞭ナルヲ以テ貴部來旨ノ如キ特種用紙ヲ使用スルモ速達上大ナル期待ヲナシ得サルモノト思考ス

居普通合第二二二號

昭和十九年四月四日

外務省在敵國民留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官 殿

俘虜拘留者郵便ニ白附記載許可方ニ関スル件

本件ニ関シ客年十一月二十日附居普通合第八三八號拙信ヲ以テ御意向御照會ノ上自十二月二十六日附在京瑞西國公使館宛「本邦控下ニ於ケル俘虜並ニ抑留者カ其ノ發信ニ日附ヲ記載スルヤ否ヤハ自由ニシテ帝國政府ニ於テハ之ニ對シ何等制限ヲ加ヘタルコトナキ」旨回答シ置キタル是今敝同館ヨリ米國政府ハ右通報ニ拘ラス收容所長ノ中ニハ郵便ニ日附ヲ附セサルヘキ旨命令セルモノアリ得ヘント思考スル旨日本政府ニ通告方更ニ要請越シタル趣ヲ以テ果シテ收容所長ハ御ナク日附記載許可方ノ帝國政府ノ訓令ヲ得居ルヤ否ヤ承知シ度

旨申出タリ依而右ニ對シテハ前顯往信ノ内容ヲ繰返スト共ニ各收容所及抑留所ハ右ヲ了知
シ居ル旨回答シ置キタルニ付右御了知相成度

俘通第二二四號

俘虜及軍抑留者郵便ニ日附記載許可ニ関スル件

昭和十九年四月十日

俘虜情報局長官

各 俘虜收容所長 殿
軍 抑留所長 殿

曩ニ米國政府ヨリ首題ノ件ニ関シ要請アリタルニ付別紙ノ通回答シ置キタルヲ以テ参考迄
ニ別紙寫送付ス

追テ當局トシテハ日附記載方ヲ禁スル意図ハ無之ニ付爲念

九三内

俘情第二。號ノ九ニ

俘虜抑留者郵便日附記載ノ件

昭和十八年十一月二十四日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公便殿

居普通合第八三八號ノ件左記ノ通ニ付可然御回答相成度

記

一 俘虜抑留者通信文ニ日附ヲ記載スル件ハ俘虜（抑留者）ノ自由ニシテ何等制限ヲ加ヘ
タルコトナシ

二 今次米國政府ノ申出ニ對シ茲ニ更メテ日附記載方ヲ恣憑スルノ意思ナシ

普通 五七〇號

東亞圈内ニ於ケル停虜及抑留者宛郵便物ニ関スル件 回答

昭和十九年十二月二日

停虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

十一月十六日附参照才六四六號ニ依ル首題ノ件左ノ通回答ス

左記

一、才一號ノ特別印刷セル停虜郵便葉書及才三號寄府來電才一四九二號ノ二ノ濠洲赤十字社ノ航空便ニ因シテハ調査ノ必要上此ノ様式特ニ從來ノ郵便物ト異ナルヲ承り度尚表紙及切手ノ貼附ハ郵便配達ノ遅速ニ何等關係無之ニ付申添フ

二、才二號ノ米國赤十字社發送ノ小包ニ就テハ十月二十五日ヨリ致次ニ亘リ当局ニ到着シ目下計一六。個保管シアリテ之ニ因シテハ近ク外務省ヨリ瑞西公使館ヲ介シ米國宛回答アル筈ニ付之カ趣旨ニ則リ処理ノ豫定ナリ

九三六

譯文

参照才六四六號

東亞圈内ニ於ケル停虜及抑留者宛郵便物ニ関スル件

護符陳者寄府委員會ヨリ左記ノ様ニ因スル電報ヲ入手仕候

左記

寄府來電才一四九八號

一、米國及英國赤十字社ハ檢閲ヲ容易ナラシムル爲メ及收容所抑留所等へ配達ヲ容易ナラシムル爲メニ東亞圈内ニ於ケル停虜及抑留者へ差出ス可キ通信ニ對シ特別ニ印刷セル葉書ノ使用方ヲ一般ニ奨勵致候。才一題目ノ葉書が一九四四年七月中ニ米國ヨリ發送致サレ申候就テハ寄府委員會ハ左記御通知方懸清仕候

(イ) 左記各國ヨリ葉書發送日並ニ到着月日

北米合衆國

三六五

三六四

聯合衆國 (英國)

濠洲

亞佛利加

印度

歐洲各國及其他

(四) 最初ニ到着セル葉書ノ月日(到着月日)及ビ之カ發送國名

二、米國赤十字社ハ一九四四年八月以降毎月 *Tokyo Trans Siberian* 線ヲ郵送致候ハ
八一ニ既該小包ノ宛先ハ

(1) 主ナル收容所及抑留所ノ代表者宛ニ之有候

右ニ尚シ露府委員會ハ收容所及抑留所へ到着セル小包數並ニ到着月日ヲ承知致度存候

(四) 本代表部ニ於テハ現在迄ニ前記小包ヲ受領致シ居ラズ候

九三内

露府電才一四九二号ノ二

(1) 濠洲赤十字社ニ於テハ一九四四年七月以降航空郵便サレビス開始仕候

露府委員會ハ是等郵便力日本へ到着ナシツ、之有候試、若シ出来得レハ到着通數並ニ

到着月日ト共ニ御通知被下候へハ奉深謝候

以上

(四) 尚濠洲赤十字社ハ濠洲ヨリノ郵便物ニ張紙及切手ヲ貼附スル為メニ收容所及抑留所

へノ配達ヲ必要以上ニ遲滞致サセ申候試御伺申上候

本代表部ハ前記照會事項ヲ關係当局ヨリ御取寄セ被下候へバ感謝ノ至リニ奉存候而シテ前

記各項ニ對シ御通知被下候事ニ對シ前以テ御礼申上候

敬 貝

昭和十九年十一月十八日

赤十字國際委員會

駐日代表部

俘虜情報局 殿

三二七

三二八

昭和二十年三月三十日

外務省在敵國居留民肉係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

在舊蘭印俘虜及非戦闘員抑留者並ニ在タイ國
俘虜ノ通信ニ関スル件

本件ニ関シ今般別紙書翰寫及同假譯文ノ通在京瑞西國公使ヨリ外務大臣宛請願シ来一ルニ
付委細別紙ニテ御了悉ノ上右回答方ニ関シ何分ノ儀御回示相煩度依頼申進ス

假譯文

以書翰咨上致候陳看容年十二月二十日附口上書ヲ以テ外務省ニ對シ在「スマトラ」俘虜及
非戦闘員抑留者及在「ジャワ」非戦闘員抑留者ヨリ英國向未夕通信ノ到達シ居ラサル旨通

北四外

報スルノ光榮ヲ有シ候

最近ノ通報ニ依レハ英國政府ハ「クリスマス」前後ニ回ニ到達セル通信六万通中ニ在舊蘭
印非戦闘員抑留者ヨリノ信書無之旨申越候如斯三年以来音信全然不通ナルニ依リ抑留者家
族ノ憂慮甚メシキモ有之候尚英國政府ハ在「ジャワ」俘虜ノ通信ハ右ニ回ノ郵送ニ合マレ
居ラス一八九四年七月英國ニ到達セルモノヲ最後ノ通信トスル旨陳述致候在「タイ」國俘
虜ノ通信ニ関シテハ同國カ通信ヲ印刷葉書ニ限定スル唯一ノ國ニシテ他地方ニ於テハ若干
俘虜ハ少クトモ葉書又ハ手紙ヲ手記スルコトヲ許可セラル旨ヲ特記致候手紙ノ手記ヲ禁止
スルハ何等カ不幸ナル誤解ニ基クモノト思考致候一八九三年七月二十日附居普通第二四一
号ヲ以テ外務省ヨリ轉達セラレタル一九四三年 月二十一日「俘虜待遇規則」ノオ三十條
ニ依レハ俘虜ノ通信ニ對シテハ白紙ノ形式ヲ規定セラレ居 候依テ「タイ」國收容所カ右
規則ヲ實行シ居ラストセハ右ノ理由ヲ承知致度候英國政府モ本件ニ関シ本使ヨリノ説明ヲ
期待致候

前述ノ事情ニ鑑ミ本使ハ閣下ニ向テ帝國政府ニ於カレテハ英國政府ノ希望ニ隨ヒテ
 國乃至ハ舊蘭印ニ於ケル日本權内ノ俘虜及非戦闘員抑留者ノ通信ニ関スル規行制度ヲ改善
 スルノ用意アリヤ又其ノ方法ニ付回示セラレンコトヲ要請致候

閣下ノ御回答ニ對シ豫メ表謝旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

昭和二十年三月三日

於東京 瑞西公使

重光外務大臣 閣下

俘通第六一號

在舊印俘虜及非戦闘員抑留者並ニ在「タイ」國俘虜ノ通信

ニ関スル件回答

九四内

昭和二十年四月十七日

外務省在敵居留民關係事務室 御中

俘虜情報局

三月三十日附居普通第一八七號ニ係ル首題ノ件左ノ通回答ス

左記

一、瑞西國公使ヨリノ請願ニ舊蘭印ニ於ケル日本權内ノ俘虜及非戦闘員ヨリ其ノ家族ハ通
 信ヲ受ケアラストアルモ該地區ノ俘虜收容所及軍抑留所ハ左ノ如ク郵便物ヲ發送シマリ

昭和十九年	三月	爪哇俘虜收容所	爪哇軍抑留所	スマトラ軍抑留所
三月	一〇、八五二	不詳	不詳	不詳
五月	一〇、四一九	不詳	不詳	不詳
六月	不詳	不詳	不詳	不詳
七月	不詳	不詳	不詳	不詳
八月	一六五	不詳	不詳	不詳
九月	不詳	不詳	不詳	不詳
十月	二、三三	不詳	不詳	不詳
十一月	一、三〇	不詳	不詳	不詳
十二月	不詳	不詳	不詳	不詳

二、同シク同文中ニ「俘虜待遇規則」ノ第三十條ニ依レハ俘虜ノ通信ニ對シテ……
式ヲ規定セラレ居リトアルモ「俘虜取扱細則」第三十條ニハ斯ル規則ナシ
從ツテ余乃至舊蘭印ニ於ケル日本權内ノ俘虜及軍拘留者ノ通信ニ因スル現行制度ヲ改善
スルノ要ヲ認メス

居普通第八一二號

昭和十八年十月二十三日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ對スル賠償ニ関スル件

在本邦瑞西國公使館ヨリ米國政府ノ要請ニ其キ米國ニ於ケル日本俘虜ニシテ勞働中負傷セ
ル者ニ對シテハ其ノ再ヒ勞務ニ從事シ得ル迄賠償トシテ一日四十仙ノ高ヲ支給シ居ル處痛
國ニ於テモ同様ノ待遇ヲ米國俘虜ニ對シ與ヘラルルヤ若シ然リトセハ其支給額ハ何程ナリ
ヤ照會應シタルニ付何分ノ裁御回示相成度此致申進ス

居普通第八三三號

昭和十八年十月三十日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

勞働災害ノ罹災者タル拘留者ニ對スル賠償ニ関スル件

十月二十三日附居普通第八一二號批答ヲ以テ勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ對スル賠償ニ関

シ照會申進シ置キタル處今欲米國政府ヨリ更ニ占領地ニ於ケル拘留者ニ付テモ賠償制度ノ有無及若シ有之ハ其支給額併セテ回報方要請越シタルニ付冒頭批信ノ分ト共ニ御回答相續ハシ度シ

追テ内地及朝鮮ニ於ケル拘留者ニ付テハ勞働ニ居ラサル旨在本邦瑞西國公使館ヨリ米國政府ヘ報告シタル趣ニ付為念

存情第六號ノ三六

勞働災害ノ罹災者タル存虜ニ對スル賠償ニ関スル件回答

昭和十八年十月二十九日

存虜情報局

外務省在敵國居留民關係事務室 御中

十月二十三日附居普通第八一ニ器承照首題ノ件左記ノ通回答ス

九五四

左記

- 一、勞働中負傷シタル者ニ對シテハ再ヒ就勞スル迄就勞中ト同額ノ賃金ヲ給ス
- 二、勞働中ノ負傷ニ基キ不貝トナレル者又ハ死亡者ニ對シテハ邦人勞務者ト同様ニ救済シアリ
- 三、前號ノ場合ニ於ケル米國政府ノ態度承リ度

第一一秋合才一六五四號

昭和十七年十一月十一日

存虜情報局長 官 殿

外務次官

米國人存虜及拘留者ニ對スル救恤品補給ニ関スル米國政府ヨリ申入ニ関スル件

今欲在京瑞西公使ヨリ米國人存虜及拘留者ニ對スル救恤品補給方ニ関スル米國政府ノ提案

ニ付別添訳文ノ通り申越シタルヲ以テ右茲ニ送付ス委由右ニテ御了悉相成度シ
本信送付先 陸軍 海軍 丙次官 俘虜情報局長官

瑞西公使宛（九月二十五日附）大臣宛書翰訳文

以書翰啓上致候限看九月九日附貴翰××××ニ因シ帝國軍麾下ニアル米國人抑留者及俘虜
ニ対スル糧食補給ニ因スル左ノ米國政府回答ヲ函下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

米國政府ハ日本政府ヲ壽府俘虜待遇條約第三十七條ニ規定シアル食料及衣服ヲ内容トス
入小包ノ受領及ビ送達ヲ嘗テ拒否シタルコトナク將來ニ於テモ之ヲ拒否セズトノ声明ヲ
了スシ且交換船ニ托送ノ米國赤十字社ヨリ送付セラレタル補給品ガ日本比律賓並ニ其他
ノ日本占領地域ニ於ケル米國人抑留者及俘虜ニ分配セラルヘシトノ公式承認ヲ與ヘラレ
タルニ対シ満足シ居レリ

米國政府ハ又日本政府カ戰略的理由ニ因リ当分ノ開船船ノ西太平洋航海ノ拒否ヲ持續ス
ルト共ニ交換船以外ノ船舶ヲコロシンソマルケスヒヘ派遣スル意圖ナシトノ声明ヲ了

承セリ

然ルニ米國政府ハ既ニ比律賓群島へ送付セラレタル補給品ヲ以テシテハ同地ニ於ケル米國
人抑留者並ニ俘虜ノ継続的要求ヲ充分ニ満足セシムル爲量ニ於テ不充分ナルコトヲ指摘
セント欲スルモノニシテ更ラニ比島其他ノ日本占領地域ニ於テ日本官憲ニ依リ抑留セラ
レタル米國人ノ継続的要求ニ対スル充分ナル補給品ヲ送付スル爲ニハ交換船ハ充分ナル
積載容量ヲ有セサルヲ以テ米國政府ハ茲ニ更メテ日本政府カ比島ニ於テ日本ノ保護下ニ
アル抑留米國人ニ対スル配給ノ爲ニ當該地方物資購入ニ要スル資金ヲ米國ヨリ送付シ得
ベキ中立赤十字社國際委員會代表ノ任命ヲ許容セラレンコトヲ要望ス

米國政府ハ日本政府カ現在中立國船舶ノ西太平洋航行ヲ拒否シツツアル戰略的理由ノ解
消スルト共ニ日本政府カ米國ヨリノ補給船ニ対シ安全保護ヲ與ヘラレシムルコトヲ確信
ヲ以テ期待シ居ルモノナルカ右時期ノ到来スル迄ハ比島ニ於ケル中立赤十字社代表ノ便
用ノ爲資金ヲ供給シ以テ日本兩國政府カ相互的ニ俘虜並ニ常人抑留者ヘノ適用ヲ同意セ

十月二日附在京瑞西國公使發大臣宛書翰譯文

以書翰啓上致候限看米國赤十字社ハ在北島拘留看救恤ノ爲「マニラ」ニニ万五千名送金方
希望シ居リ瑞典赤十字社ニ對シ「マニラ」ニ設置セラレ居ル救恤団体ヲシテ處理セシムル
爲右資金送付方依頼越シタル旨通報スルル光榮ヲ有シ候

尚本件御承諾ノ御回答ニ接スル場合ニハ右資金送達方法ニ関スル日本政府例ノ御希望並ニ
御意見承知致度候

本使ハ茲ニ更ニテ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候

條ニ就第一三四九號

昭和十七年十一月十日

存 房 情 報 局 長 官 殿

外 務 次 官

九七外

在北島米國赤十字社ニ救恤金送付方ニ関スル件

本件ニ関シ今繼在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通り申越シタルニ付右書翰同譯文並ニ送付ス奉
由右ニテ御了悉相成度

迄ソテ右瑞西國公使ヨリノ申出ニ依レハ米國赤十字社ハ「ウオルフ」ヲ會長トスル在北島
米國赤十字社宛其ノ事業ヲ繼續セシムル爲資金ヲ送付シタキ趣ノ處反聞スル所ニ依レハ比
島ニ於ケル米國赤十字社ハ既ニ解散セラレ目下新タニ組織セラレタル比島赤十字社が衰ッ
テ救恤事業等ニ從事シ居ル趣ニ付瑞西國政府ニ對シテハ右事情ヲ説明シ資金ノ送付許可ハ
比島赤十字社ニ宛ソル場合ハ之ヲ許可スヘキ旨回答スルヲ適當ト思考セラ、ル處右ニ関ス
ル意見何分ノ儀御回示相煩度

九月十二日附在京瑞西國公使來翰譯文

以書翰啓上致候限看今繼米國國務省ヨリ米國赤十字社カ「トーマス、ウオルフ」

三八一

氏等會長トスル在比島米國赤十字社ニ對シ「マニラ」及其附近ニ於ケル米國兵船被虜ニ對
スル救恤事業ヲ繼續セシムル爲之ニ二萬五千弗ヲ送付シ度ク希望シ居ル旨通報シ來リタル
趣本國政府ヨリ傳達越申候

仍而本使ハ石資金ヲ在「マニラ」元端西領事ヲ通シテ送付シ以テ「ソウル」ノ團體ニ
對シ其ノ適當ト認ムル方法ニ依リ右經費ヲ使用セシメ度ク存セラルニ付テハ之カ可否等ニ
関スル實見御回示相成度右御依頼旁々本使ハ茲ニ閣下ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬 具

條三普通第四ニ五號

口 上 書

帝國外務省ハ帝國政府ニ於テハ米國人俘虜及拘留者救恤ノ爲ノ赤十字船派遣ニ関スル米國
赤十字社ノ提議ヲ審議シタル結果左記決定ニ到達セル旨赤十字國際委員會代表ニ通知シ在

札七四

壽府赤十字國際委員會ヲ通シ之ヲ米國赤十字社ニ傳達方依頼スルノ光榮ヲ有ス

昭和十七年八月三日

記

曩ニ英國政府ハ巨國政府ヲ通シ赤十字船派遣ニ関シ帝國政府ノ承認方ヲ要求シ來リタルカ
日本政府ハ太平洋ニ於ケル交戦状態ニ鑑ミ對テモ當分ノ間ハ該船ニ對スル航行安全ヲ保
障スルコト不可能アリト答ヘタルカ日本政府ハ今尚右方針ヲ變更スル理由ヲ認めス

帝國政府ハ米人俘虜及拘留者ニ對シテハ國際法ノ原則ニ基キ最も公正ナル待遇ヲ與ヘ居ル
ヲ以テ彼等ニ對シ特別ノ救恤ヲ要スルモノト認めス但シ帝國政府ハ米國赤十字社カ若干ノ
救恤ヲ要望スルコトニ對シ強テ反對スルモノニアラサルニ付將來實現セラレヘキ第二次交
換船利用ニ依ル救恤品送付方異議ナシ

居秘合才一七七七號

昭和十七年十二月二十八日

外務次官

停房情報局長官殿

將校停房ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ五月二十日附條三普通合才八二五號ヲ以テ申進置キタルトコ口今敝再應米國政府ノ提議ニ接シ別紙寫ノ通陸軍次官宛申進シタルニ付委細同寫ニテ御承知相成度シ

居秘第一四八九號

昭和十七年十二月二十八日

外務次官

陸軍次官殿

將校停房ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

外務次官

本件ニ関シ六月二十三日附陸軍普才四八五號貴信御回示ニ基キ在本邦瑞西國公使宛回答シ置キタルトコ口今敝別紙寫ノ通同公使ヨリ米國政府ノ再應ノ提議ヲ申越セリ就テハ委細同寫ヨリ御承知ノ上御詮議ノ結果何分ノ儀御回示相成度此致申進ス

譯文

第CC一五三CR號

一九四二年十二月十五日

瑞西國特命全權公使カミールコゴルヂ

外務大臣 谷正之閣下

以書翰啓上致候取者九月十二日附條三普通合才四一七號貴輪ニ関シ米國政府ハ本國政府ニ對シ左記ノ通帝國政府ニ通報方依頼越シタル旨申進スルノ光榮ヲ有ス

一 本國政府ハ帝國將校停房ニ對シ最ニ瑞西國公使館ヨリ帝國外務省宛三月二十四日附書

輸ニ依リ帝國政府ニ課示シタル長ニ依ル定糧約一白五十山ノ費用ノモリ又米國兵ノ被服ト同量ノ被服ヲ五月九日附瑞西公使館書翰ニテ提議セル率ノ俸給ヲ支払フ外給償ニテ之ヲ支給ス

米國政府ハ俘虜タル米國兵ハ食糧及被服ヲ給與セラルルヲ以テ俘虜タル其指揮者モ同様ノ食糧及被服ヲ給與セラルヘキモノト思考ス。然レ共米國政府ハ帝國將校俘虜ニ給與シタル定糧及被服並ニ給與品ノ額額ハ戰爭終了ノ際償還セラルヘキモノト期待ス同様ニ帝國政府ニ捕ヘラレタル米國將校俘虜ニ給與セラレタル食糧及被服並ニ給與品ニ對シテハ帝國政府ニ償還スヘシ

二 米國政府ハ帝國政府カ米國將校俘虜ニ對シ皇軍ノ相当階級ノ將校ノ俸給ト同額ヲ支払フ可キモ帝國ニ捕ヘラレタル米國將校俘虜ニ圓貨ヲ以テ月給ヲ支払フコトニ改訂スル申出ニハ帝國政府ニ於テ異存ナキ趣ヲ諒知セリ

然レ共帝國政府ハ五月九日附瑞西國公使館書翰ニテ提議セル弗ノ換算率ハ一弗カ四円ニ

等シキモノナリヤ否ヤヲ記述セラレサルコトヲモ諒知セリ。米國政府ハ此ノ點ニ因シ通報アラシト希望ス。帝國政府ニ捕ヘラレタル米國將校俘虜ニ對シ無償ニテ食糧及被服ヲ給與セラレサルナラハ米國政府ハ提示俸給ハ充分ナル小遣錢ヲ殘存シテ定糧及被服並ニ必需品ノ代ヲ支払フニ充分ナラスト思考スルヲ以テ一ヶ月ノ維持費ニ等シキ額迄増額セラレンコトヲ要求ス

三 米國政府ハ帝國政府ノ支払措置ハ帝國政府ニ捕ヘラレタル加奈陀豪洲ヲ含ム英國將校俘虜及其英國將校ニ對シテモ同様ナル旨ノ帝國政府ノ言明ヲ諒知セリ。英國將校及英國將校俘虜ニ對スル帝國政府ノ支払措置ハ之ヲ承知セサルニ依リ米國政府ハ之等支払措置ニ關シ通報セラレンコトヲ依頼ス

四 米國政府ハ帝國政府ノ本件支払措置ハ一方的ニ實施セララルヘリ米國政府ニ捕ヘラレタル帝國將校俘虜ニ對シ過去ニ於ケル如ク俸給全額ヲ支払フルヘキコトヲ期待スル旨ノ帝國政府ノ所述ヲ諒知セリ

英國將校及英國將校存虜ニ対スル帝國政府ノ支払措置ハ之ヲ承知セサルニ依リ帝國政府ハ之等支払措置ニ関シ通報セラレンコトヲ依頼ス

四 米國政府ハ帝國政府ノ本件支払措置ハ一方的ニ實施セラルヘリ米國政府ニ捕ヘラル帝國將校存虜ニ対シ過去ニ於ケル如ク俸給全額ヲ支払ハルヘキコトヲ期待スル旨ノ帝國政府ノ所迷ヲ承知セリ 米國政府ハ帝國將校存虜ニ対シ米國將校ニ支払ハレタル俸給額ヲ超過セサル範圍ニ於テ俸給全額ヲ支払フニ同意シ帝國將校ニ支払ハレタル俸給額ヲ承知セサルニ付之カ通報アラシコトヲ要望ス

五 米國政府ハ俸給トシテ存虜ニ対シ爲サレタル支払ハ戰爭終了際存虜ノ服役シタル國ヨリ償還セラルヘシトノ帝國政府ノ提議ヲ受諾ス

六 米國政府ハ帝國政府カ米國將校存虜ノ家族ニテ帝國内及帝國人占領地内ニ居住スル者ニ対スル金錢ヲ轉致ニ対シ便宜供與ワラルヘキ趣ヲ諒知セリ 米國政府ハ同意ニ米國ニ捕ヘラレタル帝國將校存虜ノ米國居住家族ニ対シ利益代表國ヲ通シ金錢ヲ轉致スヘシ

九外

米國政府ハ前記提議ニ関シ帝國政府ノ見解ヲ至急承知致シ度希望致居候 仍テ本使ハ本件要望ニ御回答アラシコトヲ御依頼申上候

右申進旁々本使ハ茲ニ重テ貴大臣ニ何テ深甚ナル敬意ヲ表シ候

壹才ニ一。號其一

外務省

將校存虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

陸軍省才一ニヒ五號

次官ヨリ外務次官ヘ回答案

昭和十七年十二月二十八日居秘合才一七七七號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件左記趣旨ニ依リ米國政府宛回相成度

記

一 米國政府ノ提議ニ基ク將校存虜ニ対スル給與方法ハ相互的トセス帝國ニ於テ一方的ニ

實施スルモノナリ即チ

(一) 米國ニ俘虜トナリタル帝國將校ニ對シテハ陸戰ノ法規慣例ニ因スル條約附屬規則第十

七條ニ依リ同一階級ノ米國將校ト同額ノ俸給ヲ支拂ヒ戰後帝國政府ヨリ之ヲ償還スルモ

ノトス從テ此ノ際帝國ニ於ケル將校ノ俸給額ヲ通報スルノ要ナシ

(二) 俘虜將校少佐以上ニハ百四十圓、大尉ニハ百圓、中少尉、准士官ニハ六十圓ヲ給スモ

右ハ帝國ニ於テ一方的ニ實施スルモノナルヲ以テ帝國貨幣、米國貨幣間ノ換算率ヲ兩國

間ニ於テ定ムルノ要ナシ

換算率ハ米國國內問題ナルヲ以テ米國政府ニ於テ一方法ニ暫定スルヲ以テ定ムルヘシ

二、俘虜將校ニ對スル給與金(小佐以上百四十圓、大尉百圓、中少尉准士官、六十圓)中

ヨリ糧食品及被服ヲ自辨セシムルモ充分ノ余裕アルヲ以テ本給與金ノ外ニ糧食、被服等

ヲ官給スルノ必要ヲ認メス

三、英國(澳洲、加拿大、南洋等共ノ屬領ヲ含ム)及和蘭俘虜將校ニ對スル俸給支拂モ本

九九〇

支給方法ニ依ルモノニシテ之カ實施ニ因シテハ米國政府ヨリ前記諸國政府ニ協議スルモノトス

現在ニ於テハ米國俘虜將校ニ對スルト同様ニ陸戰ノ法規慣例ニ因スル條約附屬規則第十

七條ニ依リ帝國將校ト同額ノ俸給ヲ支拂ヒアルヲ以テ米國俘虜將校ニ對シテノミ本支給

方法ニ依ルトキハ各國俘虜將校ニ對スル給與ノ整一ヲクコトトナリ事務上困難ナリ

直下本回答ニ記載セスト雖モ前回米國政府提議ニ基キ客年六月二十三日附陸軍部第四八

五號ヲ以テ回答シタル事項ハ変更セサルモノナルニ付念ノ爲

將校俘虜ノ給與ニ關スル米國政府ノ提議ニ關スル件

陸軍部

次官ヨリ外務次官ヘ回答案

四月二十八日附居報第二〇九號來照首題ノ件ニ因シ左記ノ通回答ス

貴照會別紙丙號ノ米國政府ノ回答ハ當初ノ米國政府ノ提議トハ全然本質ヲ異ニシ現行ノ儘
ヲ實施セントスルモノ如ク思料セラルルニ付本件ハ自分打切りト爲ス可トスル意見ナ
リ

陸軍部第四五三九號昭和十九年五月廿七日

居秘第三〇九號

昭和十九年四月二十八日

外務次官

存虜情報局長官殿

將校存虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル回答寫送付ノ件

四月二十八日附居秘第二〇九號外務次官發陸軍次官宛將校存虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ
提議ニ関スル回答寫別添送付ス委曲右ニテ御了知相成度

100

居秘第二〇九號

昭和十九年四月二十八日

外務次官

陸軍次官殿

將校存虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル回答ノ件

客年三月九日附陸軍秘第一二七五號貴輪ヲ以テ御回示相成リタル將校存虜ノ給與ニ関スル
米國政府ノ提議ニ関シテハ曩ニ在京瑞西國公使ヲ通シ米國政府ニ對シ別紙甲號並乙號ノ通
帝國政府ノ英譯通報シ置キタル處右ニ関シ今敝在京瑞西國公使ヨリ別紙丙號ノ通米國政府
ノ回答ヲ傳達起シタルニ付右來往信寫一括茲ニ送付ス委曲右ニテ御諒承ノ上右ニ関スル實
見何分ノ儀御回示相煩度

條三普通第四一七號

以書翰啓上致度候陳者五月九日附貴輪()ヲ以テ帝國權内ニアル米人存虜

シ 諸外國政府ヨリノ家族渡シ送金ニ関シテハ時ニ便宜ヲ供與スル用意アリ

別紙乙號

居普通第一一六號

以書翰咨上致候 爾者容年十二月十五日附第CC・一・五・三C號貴翰ヲ以テ存虜タル將校ノ
給與ニ関シ米國政府ノ再應ノ申出ヲ御通報相成敬承致候

帝國政府ハ本件ニ関シ容年九月十二日附條三普通第四一七號ヲ以テ帝國權内ニ在ル敵國人
存虜タル將校ニ對シハ我軍相當階級ノ將校ト同額ノ俸給ヲ給與シ居ル旨通報シタル次第ニ
有之(給與實施ノ細目ハ陸戰法規慣例ニ関スル條約附屬規則第十七條ニ準據ス)帝國政府
ニ於テハ特ニ右支給額ヲ變更スル必要ヲ認メサルトコロアルモ米國側ニ於テ強ク之カ變更
ヲ望マルルニ於テハ帝國政府ニ於テモ一足條件ノ下ニ之ヲ變更スルノ用意アル旨申進シ置
キタル次第ニ有之候

〇一六

帝國政府ハ今尚其ノ條件ヲ變更スル意嚮無之モ前記提議ノ條件ニ関シ左ノ事項ニ付茲ニ米
國側ノ注意ヲ喚起致候

一 帝國政府ノ提議シタル諸條件中特ニ其給與額ハ存虜ノ生活費ヲ慎重考慮シタル上決定
シタルモノニシテ右給與額ヨリ食費及被服費ヲ自辨スルモ尚充分ナル餘裕アルヲ以テ同
給與額ノ他ニ糧食及被服ヲ支給スルノ必要ナク且給與額增加ノ必要モ無之候

二 帝國政府ノ提議セルトコロニ依リ實施セラレヘキ將校存虜ニ對スル給與額及之カ支給
方法ハ之ヲ相互的トセテ帝國政府ニ於テ一方的ニ實施スルモノニシテ米國ニ存虜トナリ
タル帝國將校ニ對シテハ米國側ニ於テ俸給全額ノ給與ヲ繼續シ之ニ對シテハ戰後帝國政
府ヨリ之ヲ償還スルモノニシテ何レモ一方的給與措置ナルヲ以テ此ノ際帝國ニ於ケル將
校ノ俸給額ヲ攝取スルノ要無ク且又現在ノトコロ相互間ノ換算率ヲ決定スルノ必要モ無
キ次第ニ有之候

三 帝國政府ニ於テハ帝國權内ニ在ル英國(濠洲・加奈地・南阿等其ノ屬領ヲ含ム)及和

蘭國ノ全部ノ俘虜タル將校ニ對シ一律ニ前記ノ如ク帝國將校ト同額ノ俸給ヲ支給シ居ルヲ以テ米國俘虜將校ニ對シテノミ本給與方法ヲ量ニ帝國政府カ變更ノ用意アル旨申進シ置キタル方法ニ變更適用スルコトハ困難ナルヲ以テ右變更實施方ニ関シテハ米國政府ヨリ前記各國政府ニ對シ之カ採用方ニ関シ協議ノ上決定セラレ度候
右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬 具

昭和十八年四月二十八日

外務大臣 重 光 奏

瑞西國特命全權公使

「カミ」エ・「ゴルジエ」閣下

別紙丙號

以書翰格上致敬陳看客年四月二十八日附居普第一一六號黃翰ヲ以テ日本權内ニ在ル米國俘

一〇一四

虜將校ニ支給セラルル俸給ニ関スル情報御通達相成候

本便ハ右ノ次第ヨ早速米國政府ノ代理タル我政府ニ通報シ置キタルコトヲ茲ニ閣下ニ向テ通告スルノ光榮ヲ有シ候

華府政府ハ左記回答ヲ日本國政府ニ轉達方依頼越候

米國政府ハ日本國政府カ其ノ管下ニアル米國俘虜將校ニ對シ日本軍相當階級官ト同額ノ俸給ヲ支給スヘキ旨提議ヲ受諾ス 右俸給ハ食費及被服費ヲ含マズ米國俘虜將校ハ其ノ俸給中ヨリ之ヲ支辨スルコトト了解ス米國政府ハ相互的ニ米國軍管下ノ大尉相當官以上ノ日本俘虜將校ニ對シ日本國政府カ日本軍ノ相當階級將校ニ支給スル俸給ヲ支給スヘシ米國軍管下ノ日本俘虜將校ハ其ノ俸給中ヨリ食費及衣服費ヲ支辨スヘシ米國政府ハ米國軍ノ中尉及少尉ニ相當スル日本將校ハ夫々月額八十五圓及七十圓八十三錢ヲ支給セラレ居ルモノト了解ス提議セル爲替率一弗對四圓ヲ基準トスレハ之等俸給ハ夫々月額二十一弗二十五仙及十七弗七十一仙ニ相當シ米國ニ於ケル食費及衣服費ヲ支辨スルニ充分ナラスト看做サル依テ

本國政府ハ片務的ニ前記階級ニ居スル日本将虜將校ニ對シ天々月額二十八弗及二十五弗ヲ支給シ右費用ヲ支辨シタル上不意ノ用意ノ爲少額ノ餘裕ヲ残サシム
本使ハ茲ニ重テ貴大臣ニ向テ敬意ヲ表シ候

條三普通合第八ニニ號

昭和十七年五月二十日

外務次官

俘虜情報局長官殿

在英國抑留人ノ給與等ニ関スル英國政府リ甲出ノ件

本件ニ関シ英國政府ヨリ申出アリタル趣ヲ以テ本邦英國利益代表タル在京「アルセン」
代理大使ヨリ別紙ノ通申越シタルニ付右茲ニ送付ス貴見何分ノ儀御回示相成度

一〇五

本信送付先 陸軍次官 海軍次官 俘虜情報局長官

五月一日附在京亞爾然丁國大使來翰第五三號譯文

以書翰格上致候、爾者本使ハ英國政府ノ要請ニ依ル趣ヲ以テ本國政府ノ訓令ニ依リ貴大臣
ニ對シ左ノ通り通報スルノ光榮ヲ有シ候

一 英國政府ハ自治領及植民地俘虜ヲ含ム凡テノ英國俘虜ニ對シ日本政府カ同様ノ取扱ヲ
爲スモノトノ假定ノ上ニ日本軍非將校俘虜ニ對シ必要ナル衣服ヲ給シ居レリ
二 俘虜ニ對シ左ノ食料ノ供給ヲ許可シ居レリ

日本人下士官ニ對スルモノ

馬鈴薯又ハ甘藷
ニオンス

新鮮ナル野菜
三オンス

米
一〇オンス

100

大豆 三オンス

肉又ハ魚肉 ニオンス

新鮮ナル果物 三オンス

砂糖 半オンス

塩 半オンス

「ラード」又ハ食用油 ニオンス

若シ存庫カ労働敵ニ雇傭サレタルトキハ米四ツオンスヲ増加ス

三 日本政府ニ於テ希望セラレ且ツ食糧ノ入手可能ナルニ於テハ英國政府ハ第二項所述ノ

糧食ノ割合ヲ變更スルノ用意アルモ之ニ先チ歐洲人及豆畑重人ヲ含ム英國存庫ニ對シ與

ヘラルル糧食量ヲ承知致シ度ク希望シ居レリ

四 英國政府ハ又日本將校存庫ニ對シハ第二項所定ノ食糧ヲ一時的ニ給シ居レルモ右ハ

自費トスル旨ヲ表明ス

二〇二四

五 英國政府ハ相互條件ノ下ニ一週ヲニオンスノ煙草若クハ卷煙草ヲ非將校存庫ニ無償

ニテ給付スルノ用意アリ

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

條三普通合第一三六六號

昭和十七年九月十六日

外務次官心得 山本 熊一

存庫 請 報 局 長 官 殿

日英兩國存庫ノ給與ニ関スル件

本件ニ関シ五月二十日附條三普通合第八ニニ號ニ添附ノ別紙ヲ以テ申進シ置キタル處同信

中英國側ハ日本入下士官ニ對スル食料ノ供給分量ニ新鮮ナル野菜三ツオンスレ米十ツオンス

スレト通知シ來レルモ皆方ヨリ照會ノ結果右ハ新鮮ナル野菜六ツオンスレ米二十ツオンス

四〇二

ノ誤ナルコト判明セリ石通報申進ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、俘虜情報局

條三普通合第八一五號

昭和十七年五月十九日

俘虜情報局長官殿

外務次官

俘虜ノ俸給ニ関スル英國政府申入ノ件

本件ニ関シ今般英國ノ利益代表タル在京亞爾然丁國大使ヨリ別紙書翰寫ノ通申越アリタル處本件申入ハ一九一九年ノ俘虜ノ待遇ニ関スル條約第二十三條ノ規定ニ依ル俘虜將校ニ對

一〇三六

スル支拂ニ関スル通報ト認メラルルニ付委田石翰ニ付御知悉ノ上支拂ニ関スル諸問題ニ関シ貴見何分ノ儀御回示相成度

本信送付先 陸軍省、海軍省、大藏次官、俘虜情報局長官

五月一日附在京亞爾然丁國大使來翰第五ニ號譯文

以書翰啓上致候際若本使ハ英國政府ノ要請ニ依ル趣ヲ以テ本國政府ノ訓令ニ依リ貴大臣ニ對シ左ノ通報スルノ榮ヲ有シ候

英國政府ハ俘虜トナリタル日本將校俘虜ノ俸給ニ関スル左ノ如キ暫定的命令ヲ發セリ

第一傍是ニ依ル月俸左ノ通

大將 (general) 三一・一五・一一

中將 (lieutenant general) 二七・一一・一〇

少將 (major general) 二四・一一・九

四五

大佐	(Colonel)	一七・一八・五
中佐	(Lieutenant Colonel)	一二・一四・五
少佐	(Major)	九・一六・〇
大尉	(Captain)	七・一・〇
中尉	(Lieutenant)	四・一八・三
小尉	(Second Lieutenant)	四・一・一

右ノ暫定的相場ニテ換算率ハ一圓ヲ一先一片八分ノセトス

第三、壽府俘虜ノ待遇ニ関スル條約第二十二條規定ニ依リ將校ノ衣服及食料ハ自費トス

第四、英國政府ハ左ノ事項ヲ承知政度シ

(イ) 前記暫定俸給率ハ日本政府カ支拂ヒ居ルモノト一致セルヤ否ヤ又第二ニ所定ノ圓相場ヲ英國將校ニ認メ居ルヤ否ヤ

(ロ) 然ラレバ、日本陸海空軍將校ノ俸給發給ナリマ又右ヲ英國俘虜將校ニ支拂ヒ

居ルヤ否ヤ

(イ) 壽府條約第二十三條所定ノ規定ニ依ル暫定為替相場ヲ日本政府ハ受諾セラルルヤ否

ヤ

(ロ) 日本政府ハ將校ニ對シ無償ニテ食料給付ヲ為ス特別協定ヲ企圖ヤラレ居ルヤ然リトセハ英國政府ハ右ニ関シ提案ヲ為スヘシ

英國政府ハ日本政府カ壽府條約第二十三條ノ規定ニ基キ其ノ比率ニ依リ給與スルモノト了解シ然シテ右等將校カ第二十二條所定ノ必要ナル食料及衣服ヲ購入スルノ便宜ヲ與ヘラルルモノト思考シ居レリ

第五、次表ニ掲ケタルハ捕獲セラレタルヲ保護人員レ及其ノ下士官ニ對シ英國政府ヨリ支拂ハルヘキ日額ナリ

軍醫	少將	(Major General)	四・一〇・六
醫	少將	(Major General)	四・一〇・六

大 佐	(Colonel)	三	三	四
中 佐	(Lieutenant)	二	一	二
少 佐	(Major)	一	一	四
大 尉	(Captain)	一	四	六
中 尉	(Lieutenant)	一	九	一
大 佐	(Colonel)	三	一	二
中 佐	(Lieutenant Colonel)	二	九	一
少 佐	(Major)	一	一	八
大 尉	(Captain)	一	二	八
中 尉	(Lieutenant)	一	八	二
看護婦	(Nurse)	一	八	二

簿 志 片

婦 長	(Matron)	一	六	〇
看護婦	(Nursing Sister)	九	五	〇

下士官 (日給)

聯隊附軍曹	(Regimental Sergeant)	一	二	六
中隊附軍曹	(Company Sergeant)	九	〇	〇
曹 長	(First Sergeant Major)	八	六	六
軍曹	(Sergeant)	六	六	六
軍曹勤務隊長	(Lance Sergeant)	五	三	三
伍 長	(Corporal)	四	六	六
兵 長	(Lance Corporal)	三	九	九
兵	(Private)	二	六	六

一〇四

下士官ハ更ニ補綴セラレタル戦士部隊ニ認メラレタルモノト同量ノ食糧ヲ受ク

將校ノ位置ハ自費ヲ以テス。諸將校ハ給與ノ外ニ食料ヲ給與サルヘシ
 英國政府ハ日本軍政府カ英國ノ保護人等ニ對シ給與セラルル給仕額ニ付基知致度
 印度ノ守ニ依リ任命セラレタル將校ニ對スル給與ハ月額三磅ニ上ラレ度シ
 在將校ハ英國印度軍スハ兵部總長將校ト區別セラルル爲メ左ノ階級ヲ有シ居レリ
 陸軍少將 (Rissaldar Major)
 陸軍中將 (Rissaldar)
 陸軍少佐 (Subadar)
 陸軍中尉 (Jemadar)
 (陸軍少佐カ兵部總長ハ兵部トナシ官トノ中間ニ位スル特殊ノモノナリ將校ニハアラズ)
 本便ハ此ニ關シテ何ソテ宜キテ致意ヲ表シ候
 致 具

10415

壹第ニ一〇號

條三普通合第八ニ五號

昭和十七年五月二十日

陸軍次官 殿

外務次官

米國政府ノ俘虜將校俸給特別協定締結方申入ノ件

本件ニ関シ今般米國ノ利益代表タル在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通申出テリタルニ付委曲右
 ニテ御知悉ノ上實見何分ノ儀御回示相成度

承信送付先 陸軍省 海軍省 俘虜情報局

五月九日附在京瑞西國公使來翰譯文

以書翰洛上致候眼右本便ハ貴大臣ニ對シ獨逸國政府ハ同國內ニ收容セラレ居ル米國俘虜將

校ニ支給サルヘキ俸給ニ関シ何等カ提案提示方米國政府ニ要求シタルコトヲ知照致シテ
ルト共ニ米國政府ハ帝國政府カ如何ナル方法ニ於テ爾府俘虜條約第二十三條並ニ第二十四
條ヲ適用セントスルカラ承知致度希望シ居ルコトヲ並ニ御傳達申エクルノ光榮ヲ有シ候
米國政府ハ本件ニ関シ帝國政府ニ對シ左ノ提案ヲ為シ居リ候

米國政府ハ俘虜將校ニ對シ俘虜捕獲國カ支拂フヘキ俸給ニ関スル爾府條約第二十三條及第

二十四條ニ依リ將校ニ對スル支拂換算率ヲ相互條件ノ下ニ一弗四圓トスヘキコトヲ提案ス

一 陸軍中尉又ハ少尉、陸軍准尉、陸軍准士官、海軍中尉、海軍少尉、一等准尉、海軍准

士官、海軍陸戰隊所屬海軍中尉及少尉、海軍一等准尉、海軍准士官及米國沿岸防備隊又

ハ米國公衆衛生隊中ノ同階級ノ者並ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相当者八月額十五弗又ハ

六十圓ヲ支給サル

二 陸軍大尉、海軍大尉、海軍陸戰隊大尉及米國沿岸防備隊又ハ米國公衆衛生隊中ノ同階

級者並ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相当者八月額二十弗圓又ハ百圓ヲ支給サル

一〇五外

三 陸軍少佐以上、海軍少佐以上、海軍陸戰隊少佐以上及米國沿岸防備隊又ハ米國公衆

衛生隊中ノ同階級者並ニ日本軍隊ニ於ケル右階級相当者八月額三十五弗又ハ百四十圓ヲ

支給サル

前記給與ハ俘虜收容所ニ於テ配付セラルル食糧ノ外ニ與ヘラルルモノニシテ俸給金額ヨリ

前記給與ヲ差引キタル殘額ハ俘虜所屬國ヨリ俘虜將校ノ家族ニ分割支拂ハルヘシ

本件米國政府提案ニ對スル貴國政府ノ諾否同ヒ旁本便ハ茲ニ重テ閣下ニ向テテ敬意ヲ表

シ候

陸軍 普

陸軍次官ヨリ外務次官宛回答案

條三普通令第八二五號ヲ以テ照會ニ依ル首題ノ件ハ左記ヲ條件トシ之ニ應スルモ差支ナキ
旨回答相成度

一 糧食費、被服費及日用品費ハ自辨トス

註 中、少尉、准士官ニ給スル月額六十圓ヲ以テスルモ右諸費ヲ自辨シテ且相當ノ

小遣金ヲ利シ得ル見込ナリ

二 英國（加泰陀、澎湖ヲ合ム）和蘭俘虜將校ニ對スル俸給支拂モ本支給方法ニ據ルコトアリ

三 本支給方法ハ相互的トセス帝國ニ於テ一方的ニ實施スヘキコト

四 本支給方法ニ據リ支給スル給與額ハ戰爭終了後千九百一十七年陸戰ノ法規慣例ニ因スル條約及俘虜ノ待遇ニ因スル千九百一十九年七月二十七日ノ條約ニ基キ敵國政府ヨリ償還セラルヘキモノト諒解ス

追テ俘虜タル將校ノ家族ニシテ帝國領土又ハ占領地内ニ居住スル者ニ對スル敵國政府ヨリノ家族渡俸給ノ送金ニ因シテハ便宜ヲ與フル用意アリ

陸軍省第四八五號昭和十七年六月二十三日

一〇五内

條三普通第一二八號

昭和十七年二月二十日

外 務 次 官

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ金錢收入ニ関スル米國政府ノ提案ニ関スル件

本件ニ関シ今敍米國政府ヨリ瑞西國政府ヲ通シ別紙書翰寫ノ如ク申入レ越タルカ右八一九二九年俘虜條約第二十三條ニ基キ俘虜將校ノ俸給、支拂方法、為替相場ニ関シ又第二十四條ニ基キ所持金最高額ニ関シ取極ヲ爲サントスルモノト認メラレ當方トシテハ本條約ヲ準用スルモ何等其ノ義務ヲ負ヒ居ラス又内容的ニ見ルモ俘虜俸給及所持金ノ増額ハ我方ニ有利トモ認メラレ入勞々先方申入ハ之ヲ拒絕スル方宜敷キヤニ認メラルル處貴見御回示相成度

瑞西公使二月三日附米翰假譯

四一六

以書翰洛上致候限看一月十四日附批翰の。E.C. 7. / . 0. 2. 二開シ米國政府ヨリ日本政府宛米國
軍部ニ於ケル基本俸給（租シ住宅料、食費、年功加俸ヲ除ク）ニ付左ノ通通報方本國政府
ニ對シ依頼越シタルヲ以テ茲ニ通報申上候

陸軍大尉	(Army General)	八〇〇〇
陸軍中尉	(Lieutenant General)	一〇〇〇
陸軍少將	(Major General)	一〇〇〇
陸軍副少將	(Brigadier General)	六〇〇〇
陸軍大佐	(Colonel)	四〇〇〇
陸軍中佐	(Lieutenant Colonel)	三〇〇〇
陸軍少佐	(Major)	三〇〇〇
陸軍大尉	(Captain)	二四〇〇

一〇六

陸軍中尉	(First Lieutenant)	二四〇〇
准士官	(Warrant Officer)	一三六
海軍陸戰隊少將	(Marine Corps Major General)	六〇〇〇
海軍副少將	(Brigadier General)	六〇〇〇
海軍大佐	(Colonel)	四〇〇〇
海軍中佐	(Lieutenant Colonel)	三〇〇〇
海軍少佐	(Major)	三〇〇〇
海軍大尉	(Captain Lieutenant)	二四〇〇
海軍中尉	(First Lieutenant)	二〇〇〇
海軍少尉	(Second Lieutenant)	一五〇〇
海軍一等准尉	(Chief Warrant Officer)	一〇〇〇
海軍准士官	(Warrant Officer)	一三六

一〇四

沿岸防備

海軍少將

(Coast guard Rear-Admiral) 一〇〇〇

海軍大佐

(Captain) 四〇〇〇

海軍中佐

(Commander) 三〇〇〇

海軍少佐

(Lieutenant Commander) 三〇〇〇

海軍大尉

(Lieutenant) 二〇〇〇

海軍中尉

(Lieutenant) (junior grade) 二〇〇〇

海軍少尉

(Ensign) 一〇〇〇

海軍一等准尉

(Chief Warrant Officer) 二〇〇〇

海軍准士官

(Warrant Officer) 一七六六

本件米國政府ノ通報ハ存房規定ニ関スル千九百二十九年七月二十九日ノ藩府條約(第二十
三條及二十四條)ニ基クモノニ御座候

一〇之内

米國政府トシテハ前記箇條ノ趣旨ニ依リ瑞西聯邦政府ヲ通シ帝國政府ト取極ヲナスコトニ
交渉ヲナス用意ヲ有スルモノト被存候

日本政府ニ於テ本件ニ関シ同様協定ヲナス意向ナリヤ御回示相成度茲ニ御依頼旁々本使ハ
閣下ニ向ツテ重ネテ深甚ナル敬慮ヲ表シ候

敬 具

存房發第一三一號

存房ノ金銭收入ニ関シ米國政府ニ對スル回答ノ件

昭和十七年三月六日

存房情報局長官 上 村 幹 男

外務次官 西 香 友 殿

條三普通第一三八號ヲ以テ承照首題ノ件ハ貴意見ノ通回答ノ要ナカルヘシ

四九

昭和十七年九月二十一日

外務次官

俘虜情報局長官殿

俘虜及抑留者ノ勞働賃金ニ関スル米國政府ノ提議ニ関スル件

本件ニ関シ今般米國政府ヨリ在京瑞西國公使ヲ通シ書翰ヲ以テ提議アリタルニ付同書翰ヲ
文送付ス 右ニ對スル貴見御回示相煩度

本信送付先 陸軍、海軍、内務各次官、俘虜情報局長官

在京瑞西公使八月十二日附書翰譯文

以書翰格上致候願看抑留非戦闘員ノ勞働ニ関スル三月二十四日附批翰ニ引續キ米國政府ハ
帝國政府ニ對シ左ノ如ク通告方依頼越シタル旨通報スルノ光榮ヲ有シ候

米國政府ハ俘虜ノ待遇ニ関スル條約第三十四條ニ規定セラレタル手續ニ從ヒ俘虜ノ勞働
カ

イ 其ノ居室ヲ含ム收容所ノ維持又ハ修繕ニ必要ナル

ロ 俘虜ノ安樂又ハ健康ヲ改善又ハ増進ニ関係スル

ハ 又ハ俘虜各自ノ收容所内ノ經濟ニ関係スル

以外ノ目的ニ使用マラルル場合ニハ俘虜ニ對シ毎日俘虜ノ給養ノ外ニ瑞西貨三法ニ相当
スル金額ヲ支拂ハルル様協定スルゴトヲ提議ス

有給ノ勞働ヲ希望スル米人抑留非戦闘員ニ對シ帝國政府カ幾何ノ金額ヲ支拂ハルルマノ
情報ヲ受クル迄米國政府ハ前項三點ニ記載シタル以外ノ勞働ヲ希望スル抑留非戦闘員ニ
對シ毎日瑞西貨三法ヨリ少ナカラサル率ヲ以テ支拂ヒヨ為スベク且右支拂ハ抑留非戦闘
員ノ給料ノ外トス

本件ニ関スル帝國政府ノ御意齋御回示依頼旁々本使ハ茲ニ貴大臣ニ對シ添書ナル致意ヲ

表シ候

存管第四號ノ三九

存房勞務賃金ニ関スル件通牒

昭和十八年七月二十八日

存房管理部長

北方、東部、中部、西部、朝鮮、各參謀長

関東軍總參謀長

存房ヲ部外勞務ニ服セシメタルトキノ賃金ニ関シ之カ取扱區々ナル向モ有之哉ニ宛受ケラ
ルルニ付念ノ爲左記ノ通牒ス

左記

一 部外官廳ノ勞務賃金ハ陸軍部隊ニ於ケル場合ト同様トス從テ此ノ場合ハ國庫納金ナシ

二 前號以外ノ部外勞務

(一) 基本賃金ハ准士官下士官兵ヲ問ハス一円ニシテ其ノ中准士官ニ在リテハ二十五錢

下士官ニ在リテハ十五錢、兵ニ在リテハ十錢ヲ夫々本人ニ支給シ残額即チ准士官ニ在

リテハ七十五錢、下士官ニ在リテハ八十五錢、兵ニ在リテハ九十錢ヲ夫々國庫納金ト

ス

(二) 有技術者ニ對シ基本賃金ト外三十五錢以内ヲ増額シタルトキハ該金額ハ本人ニ支給ス

ルモノトス從テ此ノ際ニ於ケル國庫納金ハ前號ニ於ケル場合ト同額ナリ

ハ例之有技術下士官ニ三十錢ヲ増額シタルトキハ存房使用者ノ納付スル賃金ハ一円

三十分(基本賃金一円ニ増額三十錢ヲ加フ)ニシテ其ノ中四十五錢(基本賃金中

本人ニ支給スヘキ十五錢ニ増額三十錢ヲ加フ)ヲ本人ニ支給シ残額八十五錢ヲ國

庫納金トシテ納付ス

三 非軍人タル存房ヲ勞務ニ服セシメタルトキ賃金ハ相當階級ノ職階員存房ニ準スルニ

尉官以上相當者ニ在リテハ准士官ニ準スルモノトス

參照第二號

謹 啓

本代表ハ存虜ノ給料ヲ外國へ送金スル件ニ関シゼニ一ツヨリ書翰ヲ致取申候
致ケ國ニ於テハ存虜運ガ自己ノ得タル給料中其或部分ヲ家族達へ送金スル事ヲ許可致サレ
居候ゼニウ赤十字國際委員會ハ屢々存虜自身 或ハ其家族達ヨリ該問題ニ関スル留置國ノ
便宜實施方法ノ照會ニ接シ居申候

ゼニウ赤十字國際委員會ハ右ノ問題ニ関シ日本ニテハ如何ナル措置ヲ採ラレテ居ルカニ付
全部明細ナル報告ヲ要望致居候

ゼニウ赤十字委員會ハ特ニ左記ノ諸事ヲ承知致シ度希望仕居候即チ存虜ハ給料ハ幾割ヲ家

一〇八

族ニ送金ナシ得ルヤ送金ノ方法及存虜ノ保護者カ送金受領方法ノ希望ヲ明承スル方法等ニ
候本代表ハ貴局ニ於テ該問題ヲ御研究被成下候ハ誠ニ感謝ノ至リニ奉存候 敬 具

昭和十八年六月七日

横 浜 赤 十 字 國 際 委 員 會
駐 日 代 表

存 虜 情 報 局 殿

存情第六號ノ一四

存 虜 ノ 本 國 送 金 ニ 関 ス ル 件

昭和十八年六月十五日

存 虜 情 報 局 長 官

赤十字國際委員會駐日代表殿

六月七日附參照第二號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答ス

四三五

一、客年米國政府ヨリ帝國政府ニ對シテ存虜將校ノ捧給金額ヲ支給スルコトナリ帝國
 ハ一部ヲ支給シ差額ハ米國ニ於テ家族ニ對シ支給致シ度キレ旨ヲ照會シ承リタルヲ
 米國政府トシテハ之ニ對シ原則トシテ異議ナキ旨ヲ回答シ目下實施ノ細部ニ関シ接衝
 ナリ從テ本廳案カ實現シタルトキハ存虜ノ米國宛送金問題ハ解決スヘシ
 二、現在ニ於テハ前懸懸案解決セサルヲ以テ相互關係等ヲ考慮シ存虜ノ米國宛送金之ヲ許可
 シアラヌ

居普通第九四八號

昭和十八年十二月二十九日

外務省在歐國居留民關係事務室 鈴木 公使

存虜情報局長官殿

英國人存虜ニ對シ食糧改善方申出ノ件

曩ニ赤十字國際委員會並ニ在京瑞西國公使館ヨリ英國人存虜ニ對シ營養補足ノ爲大臣増給
 方申出アリタル處此種特定食料品ニ對スル要求ニ應諾シ得サルハ勿論ノ儀ト被存タルニ付
 關係當局ニ於テハ存虜ノ食糧ニ對シ細心ノ注意ヲ拂ヒ居レルヲ以テ特定品ノ増給ヲ特ニ考
 虜スル必要ヲ認メ難シト應酬シ置キタリ

然ルニ今般在京瑞西國公使館ハ別添十二月九日附口上書譯文ノ通存虜ノ食糧ニ関スル英國
 政府抗議ヲ傳達越セル處本件處理ニ関シテハ關係當局ニ於カレテモ充分ノ考慮ヲ拂ハレ居
 リ英國例申出ノ如キ事項モ既ニ御考究済ノコトト被存モ先方抗議反駁ノ適當資料モアラハ
 御回示置相成度

十二月九日附在京瑞西國公使館口上書譯文

前國外務省ハ瑞西國公使館ニ對シ六月二十三日附居普通第一八七號ヲ以テ鈴木公使閣下殿

在本邦國際赤十字代表宛公信寫ヲ送付セラレタル處右ニ依レハ關係當局ハ存廢食糧問題ニ付充分ノ注意ヲ拂ハルヘキ旨陳ヘラレ居レリ

同公使館ハ外務省ニ對シ右ノ次第關係國政府通告ノ爲自國政府へ報告セル旨通知スルノ光榮ヲ有ス

一方英國政府ハ左ノ通告ヲ爲シ來レリ

存廢ニ分配セラレタル定糧表ノ分析、存廢ノ一徹的宣量減退、南方諸地域ニ於ケル脚氣ニ因ル多數ノ死亡等ハ何レモ日本官憲ニ於テ存廢カ十分ナル食糧ヲ與ヘラレ居レリトノ主張ト相違スルモノナリ

殊ニ脚氣ニ關シテハ存廢ニ對シ通常米カ精米ニテ交付セラルル爲主要「ガイタミン」レタル「ガイタミン」レハノ缺乏ニ基因ス

依テ英國政府ハ日本ノ據内ニ在ル凡テノ存廢カ其ノ健康ヲ維持スルニ充分ナル食糧ヲ與ヘラレムコトヲ主張スルモノナルカ特ニ關係當局カ精米ノ代リニ半搗米ヲ與ヘラレムコトヲ

一九九外

要請ス

瑞西國公使館ハ外務省ニ對シ右關係當局へ移機方要請旁致ニ重ネテ敬意ヲ表ス

存廢第一號

英國人存廢ニ對シ食糧改善方申出ノ件回答

昭和十九年一月十三日

存廢情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室 鈴木公使殿

十二月二十九日附居普第九四八號來照首題ノ件左記ノ通ニ付承知相成度

左記

一 現在精米ヲ用ヒス玄米ヲ給與シアリ尙米糠「ガイタミン」劑等ヲ補給シ以テ「ガイタミン」不足ヲ補ヒツツアリ

二 脚氣ノ罹病ハ食糧不足ニ起因セルモノニアラス寧口食糧其ノ他生活狀態ノ変化ニ因ル

三ノト思考ス

翻譯文

參照第二四四號

一 俘虜及抑留者ニ對シ玄米支給量増加ニ関スル件

謹啓陳看以前ノ調査ニ基ク俘虜及抑留者ニ對スル玄米支給ノ件ニ関聯シテ貴府委員會ヨリ
本代表部宛電報ヲ以テ下記再調査方依頼致シ承申候即チ前同條玄米支給量ノ増加可能アリ
マ若シ必要ナレバ赤十字國際委員會ノ資金ヲ以テ購入スルコト、次ニ俘虜及抑留者ノ現地
ニ於ケル給食量不足ヲ適合中和スル爲米糧ヲ供給ス可ク用意スルコト等ニ在候
右ノ歎願事項ニ對シ貴局ノ從前通り御深切ナル御高配ノ程懇請仕候而シテ貴府委員會ノ提
議カ實行可能ナリヤ否ヤ當代表部宛御回答様下度御願申上候

昭和十九年二月二十二日

敬具

シ〇九〇内

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘給第一四號

俘虜及抑留者ニ對シ玄米支給量増加ニ関スル件

昭和十九年二月二十九日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

二月二十二日附參照第二四四號來照首題ノ件玄米ノ増加ハ困難ナリ帝國雜内ニ在ル俘虜及
抑留者ニ對シテハ榮養價ヲ考慮シ必要ニシテ且以充分ナル糧食ヲ補給シアルニ付何等懸念
ノ要無シト石回答ス

居普通第三五六號

昭和十九年五月十八日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公使

陸軍省俘虜管理部長 殿

俘虜タル和蘭陸軍中將「テイーバツカール」ニ對シ俸給支給方ノ件

今船在京瑞西國公使館ヨリ別添口上書假譯ノ通台灣ニ於テ俘虜トシテ收容中ノ和蘭陸軍中將「テイーバツカール」カ何等俸給ノ支給ヲ受ケ居ラサル趣ヲ以テ其ノ階級ニ相當スル俸給支給方並ニ俸給ノ支給ナク俘虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ對スル補償支給方申越シタルニ付委細石ニテ御了知ノ上本件回答振ニ関シ何分ノ儀御回示相成度

尙在京瑞西國公使館ヨリ得タル情報ニ依レハ同人ハ退職將故トシテ現役將故ニアラザル趣ナリ石御参考迄ニ申添ス

一九四四年五月五日附在京瑞西國公使館口上書假譯文

シノ外

瑞西國公使館ハ和蘭國利益代表トシテ現在台灣ニ於テ俘虜トナリ居レル和蘭人「テイーバツカール」陸軍中將ニ對スル日本軍當局ノ待遇ニ付帝國外務省ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ寫ス

太平洋戰勃發ノ際「テイーバツカール」中將ハ勲員局長ノ地位ニ在リタリ

同中將ハ日本軍ニ依リ捕獲セラレ俘虜收容所へ收容セラレタルカ右ハ其ノ軍歴ハ最後ノ軍職ニ對シ自然ニシテ論理的ナル結果ナルヘシ日本側ノ原則ハ一敏ニ俘虜トナレル各將校ノ軍階級ニ相當スル俸給ヲ支給スルニ在ルニ拘ラス同中將ハ如何ナル俸給ヲモ受領シ居ラス公使館帝國外務省ニ對シ「テイーバツカール」中將ノ階級ニ相當スル俸給支給並ニ俸給ノ支給ナク俘虜トシテ收容セラレ居タル期間ニ對スル補償支給ニ付幹施方依頼ス

俘給第二八號

俘虜タル和蘭陸軍中將「テイーバツカール」ニ對シ俸給支給方ノ件回答

昭和十九年五月三十日

陸軍省 俘虜管理部長

外務省 在敵國居留民間係事務室

鈴木公使殿

五月十八日附居普通第三五六號來照ノ「テイ」ハツカールハ退役陸軍中將ノ身分ヲ有スト
雖モ今次戦争ニ軍人トシテ参加シ帝國ニ俘虜ト爲リタルモノナリ仍テ之ニ對シ軍人俘虜タ
ル待遇ヲ與フルコトヲ得ス非軍人俘虜タル取扱ヲ爲スヲ至當トスルモノニシテ從ツテ俸給
ハ之ヲ支給セサルモノナルニ付承知相成度

居普通第五八九號

昭和十九年八月二十八日

在敵國居留民間係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜タル英國商船員ニ對スル告知傳達方ノ件

今敎在京瑞西國公使館ヨリ英國政府ノ要請ニ基キ別添ノ如キ東亞ニ於ケル俘虜タル英國商

二四四

船員ニ對スル告知傳達方依頼アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ス可然御取計相成度

英國商船員ニ對スル告知 (譯文)

抑留セラレタル英國商船事務員(船長ヲモ含ム)又ハ船員ニシテ其ノ抑留ニ関スル給料ヲ
基準トス手當ヲ受クルモノハ何時ニテモ在「ブラツクプール」及「イクロス」恩給局ニ對
シ郵便貯蓄銀行ノ勘定ニ手當保管方請求スルコトヲ得、右預金ハ年ニ、五「パーセント」
ノ割ニテ利子ヲ加算セラルル右ノ保管セラルヘキ勘定ハ所得税ニ對スル必要ナル修正、家族
ニ對スル手當及俘虜收容所ニ於ケル小遣錢支出ノ準備ヲ爲シタル殘額又、商船事務員恩給
資金會員或ハ各會社ノ恩給資金會員タル場合ハ其ノ恩給資金員據額ノ殘額ニ當ル
右勘定ハ事務員又ハ關係者ヨリノ特別ノ依頼ニ依リ恩給省ノミカ郵便貯蓄銀行ニ預金スル
コトヲ得、其ノ書式左ノ通 (下略)

存虜タル英國商船員ニ対スル告知傳達ニ関スル件回答

昭和十九年九月十三日

存虜情報局長 官

外務省在敵國居留民関係事務室 鈴木公枝 殿

八月二十八日附居留普通第五八九號來照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

存虜收容所ニ收容中ノ船員ニ対スル取扱ハ船長ニ在リテハ佐官相當者タル文官職員(高級船員)ニ在リテハ尉官相當者タル文官船員ニ因(但シ勞務ニ服シ賃金ヲ得)ヲ支給シアルノミニシテ其ノ他ノ者ハ兵同等ノ待遇ヲ爲シアリ從ツテ本件ニ該當スル手當ヲ支給シアラサルヲ以テ傳達ノ要ナキモノト思料ス

参照第四五八號

一 存虜ノ預金ヲ日本支配下ノ近親者宛送金ニ関スル件

謹啓陳者貴局宛牒書一九四四年六月二十八日附第丁ノ六號ヲ以テ御送附申上置候、H、C

アングスト代表、台湾存虜收容所視察ニ関スル電報々告書御參照被下度御願申上候

電報第丁ノ六七號第五項ニ今日迄許可相成居候存虜ヨリ瓜哇、比島及馬末居住ノ近親宛送

金ニ関スル情報ヲ記載仕リ居候電報第丁ノ六八號第四項ニ於テ英國人存虜救團長 *Frank*

Simson ニ依リ述べラレタル希望、即チ存虜ノ予金勘定ヨリ馬末、比島及特ニ前葡領東

印度ニ於ケル近親者へ定期的送金實施ノ許可ニ関スル件ヲ傳達致シ居候

前記電報ニハ台湾存虜收容所長ノ述べラレタル情報即チ軍當局ニ於テハ送金問題ニ関シ最

善ノ努力ヲ致シ居ラルル事實ヲモ記載致シ居申候

右ニ関シ貴府委員會ヨリ電報ヲ入手仕候夫レニ依レハ貴府委員會ハ關係國赤十字社ニ代リ

斯カル送金問題ノ重要ナル点ヲ強調シ將來關係ヲ有スル存虜ニ対シ定期的間隔ヲ置キテ利

用シ得ベキ讓渡機關設定ノ爲メ日本軍當局ニ於テ確平タル御處置ヲ御承諾被下候事ニ對シ
衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表明仕候

本代表部ハ貴局ニ於テ斯カル金錢讓渡ニ對シ御仁慈ナル御留意御繼續給ハラバ難有奉存候
而シテ右関シ如何ナル御處置ヲ御講ニ被下候事ハ適當ト被存候哉御通知被成下候ヘバ感謝
ノ至リニ奉存候
敬 具

昭和十九年七月二十八日

赤十字國際委員會駐日代表部

存處 情報局 殿

存給第三八號

存處 ノ送金ニ関スル件 回答

昭和十九年八月十一日

存 處 情 報 局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

二二内

七月二十八日附参照第四五八號承照首題ノ件左記ノ通回答ス

左 記

清國臣民ノ南方占領地宛送金モ爲替管理ノ關係上嚴重ナル制限下ニ在ル現状ニ鑑ミ存處ノ
ミ對シ自由乃至ハ寛大ナル送金ヲ許スヲ得ス、但シ各存處收容所ニ於テハ事情已ムヲ得ス
ト認メタル場合ハ適宜ノ方法ニテ送金セシメアルヲ以テ承知相成度

譯 文

参照第八五一號

一 英國人存處ニ支払ハレル給料ノ件

謹啓陳者一九四四年六月本代表部 *H.C. Wright* 代表が台湾存處收容所ヲ訪問仕候節台湾
存處收容所第一分所ニ於ケル存處將校連ニヨリ作製セラレタル質問書ヲ收容所長ノ御好意

ノモトニ受領仕候該質問書ハ存虜ノ家族が本國ニ於テ支給ヲ受ケテ居ル金額並ニ收容國ニ於テ存虜が支払ヲ受ケルタメニ差引カレル可キ金額ヲ質問セルモノニ御座候
 石ニ関シ只今青府委員會ヨリ入手仕候電報ニ依レバ英國政府ハ左記資料ヲ提出致シ候

左記

一 收容國ニ於テ國債ヲ以テ支払ノ可キ金額

大將	550.00
中將	492.00
少將	416.00
副少將及大佐	310.00
中佐	220.00
少佐	170.00
大尉	122.00
中尉	85.00

少尉

70.83

(四) 英國ニ於テ右ト同額ヲ換算率1/100ニ引及ヲ以テ差引キヲナス該差引額ハ假定的ノモノ

ニシテ若シ存虜が前記金額ニ付スル金額ノ支給ヲ受ケザル場合、又ハ支払ヲ受ケタルモ一部ノミカ使用ナサザル場合ニ付シテハ本人が歸國後之等ノ事實ヲ確證セル場合ニハ其支払ヲ受ケザリシ金額又ハ使用ナサザリシ金額ニ付シ前記換算率ヲ以テ支払ヲナス

(五) 家族及被保護者ニ付スル手當及給與金

斯カル家族及被保護者ニ付スル手當及給與金ノ支給ハ本人が捕虜セララルル迄支給ナシ居リタルモノニ付シテハ通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ繼續サル。支給額ノ一部ヲ妻或ハ他ノ被保護者ノ利益ノタメニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ニハ存虜が捕虜セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ捕虜セラレザレバ補助ヲナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

前記(一)(二)ニ記載セラレタル金額ハ日本軍當局ニ於テ存虜ノ階級ニ應シ現ニ支給相成

リ居ルモノト推定仕候就テハ該樂書ノ内容ヲ台湾存虜收容所第一分所ノミナズニ軍
当局ノ御管轄下ニ於テ現在英國人將校ノ收容サレ居ル各收容所へ御傳達被成下候へ
代表部ガ衷心ヨリ感謝仕ル次第ニ御座候

昭和二十年四月六日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局 殿

存給第二ニ號

英國人將校存虜ノ給料ニ関スル件

昭和二十年四月二十七日

台湾存虜收容所 御中

客年六月赤十字國際委員會駐日代表部 *I.C. Orngot* 代表貴所訪問ノ節英國存虜ヨリ同代表

ニ提出セル質問、存虜ノ家族カ本國ニ於テ支給ヲ受ケ居ル金額並ニ收容國ニ於テ存虜カ支

払ヲ受ケル爲ニ差引カル可キ金額ニ對シ英國政府ヨリ左記ノ通提示アリタルニ付可然傳
達相成度

左記

一、收容國ニ於テ圓貨ヲ以テ支払フ可キ金額

(1) 將校 大將、五五〇、一、中將四九二、一、少將四一六、一、副少將及大佐三一〇、一、

中佐、二二〇、一、少佐一七〇、一、大尉一三二、一、中尉八五〇、一、少尉七〇、八、三

(2) 英國ニ於テ右ト同額ヲ換算率 $\frac{1}{100} = 10\%$ ヲ以テ差引キヨナス該差引額ハ假定的

ノモノニシテ右シ存虜カ前記金額ニ對スル全額ノ支給ヲ受ケザル場合、又ハ支払ヲ受

ケタルモノ一部ノミカ使用ナナル場合ニ對シテハ本人カ歸國後之等ノ事實ヲ確證セル場

合ニハ其ノ支払ヲ受ケサリシ金額又ハ使用ナサリシ金額ニ對シ前記換算率ヲ以テ支払
ヲナス

二、家族及被保護者ニ對スル手当及給與金

斯カル家族及被保護者ニ対スル手当及給與金ノ支給ハ本人カ捕獲セラルル迄支給ナシ居
 リタルモノニ対シテハ、通常ノ規則ノ條件ノモトニ支払ヲ繼續サル、支給額ノ一部ヲ妻
 或ハ他ノ被保護者ノ利益ノ爲メニ支払ヲナス事ヲ得、但シ前記方法ヲ必要トスル場合ニ
 ハ存虜カ捕獲セラレタル前ニ補助ヲ成シ居リタル事實又ハ若シ捕獲セラレサレハ補助ヲ
 ナシ得可キ旨ノ立證ヲ要ス

以上

居留普通第二八號

昭和十九年三月十六日

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木公使

存虜情報局長官殿

元「グ」ム島其他ニ就働セル米國人非戦闘員ニ
 対シ給與規定傳達方ニ関スル件

米國政府ヨリ在東京西國公使館ヲ通シ元「グ」アマム、「ウ」エーキム及比島ニ於テ各種建設工
 事ニ従事セル非戰鬥員雇傭者ニ対シ其給與ニ関スル規定左ノ通傳達方要請越タルニ付テハ
 可恣御取計相成度尙御指置ノ上ハ爲念其旨御回示相煩度

追而右来信ニハ之等従業者ハ東京第二同第三、大阪、神戸、福岡、善通寺、及上海、江湾
 及「フ」ードロト、各收容所ニ收容中ナル旨附記セラレ居ルニ付中添フ

假譯文

太平洋島嶼雇傭者賦與「フ」イタリス、夫人ヨリ元「グ」アマム、「ウ」エーキム及比島ニ在リ
 タル非戰鬥員契約雇傭者ニ対シ「一」九四二年十二月二日法律第七八四號、一九四三年十
 二月二十三日同修正法律第一一六號ニ関シ新法規ハ彼等ニ対スル給與ノ支払ヲ規定シ居
 リ彼等ノ被扶養者ハ満足ニ資金ヲ受領シツ、マル旨通達ヲ請フ

序給第三五號

元「グナム」島其他ニ遊働セル米國人非戦士員ニ對スル給與規定傳達ニ関スル件回合

昭和二十年六月六日

序虜情報局長官

外務省在敵國民留民關係事務室

鈴木公使殿

五月二十一日附居普通第

號未照首題ノ件ハ既ニ各序虜收容所ニ傳達済ナルニ付承知

相成度

居普通合第三二九號

昭和二十年八月二十六日

十一二番

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

序虜情報局長官殿

帝國國內ニアル序虜抑留者ノ給養ニ関シ米國政府申越ノ件

本件ニ関シ今般在本邦瑞西國公使館ヨリ別紙假譯文ノ通申越シタルニ付委細右ニテ御了知ノ上回答資料大至急御送付相煩度

在本邦瑞西公使館口上書 (一九四五、八、一三附) 假訳

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ米國政府ハ瑞西國政府へ左記日本政府ニ對スル通告取報方ヲ要請セル旨通報スルノ光榮ヲ有ス

記

一九四五年七月四日現在米國ニ於テ收容セラレ居ル日本人抑留者ハ毎日四八三一封度、四

晝食 魚、米飯、野菜、サラダ、麵麩

夕食 「スープ」 食肉、「マカロニ」 馬鈴薯、麵麩、茶

朝食 生果実、玉蜀黍飯、辟米粥、「ミルク」 麵麩、「マーカリン」 珈琲

晝食 食肉、米飯、野菜、「サラダ」 麵麩

夕食 「スープ」 大豆、馬鈴薯、野菜、麵麩、茶

米國政府、日本占領地域並ニ日本ニ於ケル米國人俘虜及抑留者ニ對シ日本政府ノ供與スル食糧ニ付益々憂慮ノ念ヲ深メツツアリ米國ニ於テ受領セラレタル報通ハ多岐ノ收容所ニ於テ食糧事情悪化シ居ルヲ示セリ、日本ニ依ル監禁ヨリ開放セラレタル北島米國人ノ狀況ハ日本ノ手中ニアル米國人ノ健康ニ對スル米國政府ノ憂慮ハ根據ナキニアラザルコトヲ示セリ、米國政府ハ戰爭ノ当初ヨリ東洋人ノ食糧ニ馴レザル米國人ニ對シ日本食ノ反スベキ障害ノ故ニ憂慮シ居リタリ、米國政府ハ昔ニ米國人ガ東洋食ニ慣ルルコトノ困難ナルベキノミナラス亦其ノ榮養價ハ米國人ノ慣用スル食糧ヨリモ鮮カルベシト感シ

居リ、米國人俘虜及抑留者ニ對スル食糧ハ米國政府ヨリノ引續ク要請事項ナリキ（公使館尙外務省宛九月四日附及六月二七日附口上書参照）日本政府ハ其ノ手中ニアル米國人ニ適當ナル食糧供與方ニ付戰爭ノ初ヨリ必要ナル措置ヲ講ズルコトナカリヤ、米國官憲ハ日本官憲ト異リ量ニ於テモ充分ノミナラス俘虜抑留者ノ國民的嗜好ニ合致スル食糧ヲ供與セリ、米國政府ハ知ルルニ依リ收容セラレ居ル日本人ニ對シ供與セラルル食糧ニ付テハ何等ノ不平等ナシ最近日本人ニ依リ運營セラレ居ル俘虜收容所及抑留所ノ米國人ニ對シ總テノ財政的援助ヲ停止セル日本政府ノ行為ハ日本人ガ國內米國人ニ對シ從來ノ唯一ノ方法タル規定上ノ基礎ニ依ル食糧ノミヲ給與セントシ居ルコトヲ示シ居レリ、日本政府ガ米國人ノ爲メ救恤品購入ヲ中立國代表ニ許容スルカ又ハ日本政府ガ其ノ義務ニ從ヒ俘虜及抑留者ヲ給養スルニ非ザレバ米國政府ハ日本政府カ其ノ國內ノ米國人俘虜及抑留者ノ饑餓ヲ是認スルモノナリト思考スルノ外ナシ米國政府ハ日本政府カ速ニ其ノ手中ニアル米國人ヲ饑餓ヨリ保護スヘキ旨保障ヲ與ヘンコトヲ期待ス米國政府

府ハ尚日本政府カ其ノ手中ニアル米國人カ餓餓ニ陥ラサルコトヲ保障スル爲メ手
 段ヲ示サレンコトヲ期待ス米國政府ハ日本政府ニ示シ日本ノ手中ニアル米國人カ餓餓ノ
 給養ニアル旨ノ報告ヲ看ルニ重大関心ヲ以テシ居ルコトヲ強調ス米國政府ハ日本政府及
 其ノ官吏ガ日本ノ手中ニアル米國人ノ餓餓ニ對スル責任ヲ逃ルルマトヲ得サルベキ旨宜
 言ス

本通告ニ對スル帝國政府ノ回答通報方依頼シ公使館ハ外務省ニ對シ重ネテ敬意ヲ表ス

俘虜ノ給與ニ関スル件

陸軍省案

陸軍一般へ達

大東亞戰爭ニ於ケル陸軍ノ管轄ニ属スル俘虜ノ給與ニ関シ左ノ通定ム

昭和十七年 月 日 陸軍大臣

第一條 大東亞戰爭ニ於ケル俘虜ノ給與ニ関シテハ明治三十七年陸運第九十七號ノ二(俘虜取扱細則)ノ規定ニ拘ラズ本達ニ依ル

第二條 俘虜タル將校ニハ其階級ニ應ジ帝國陸軍將校ノ受クル俸給(佐官ニ在リテハ昭和十四年初令第四九〇號「陸軍軍人俸給臨時特例」別表第一ノ俸給)ト同一金額(一階

給中級額ニ等級アルモノハ最下額)ニ依ル戦時増給ハ之ヲ支給セズ

第三條 俘虜タル文官及准士官以下ニハ俸給ヲ支給セズ

第四條 俘虜タル將校ノ糧食ハ台辨トシ傳令又ハ当番ヲ附シ自炊セシム

收容所長(之ニ準スル者ヲ含ム以下同シ)ハ必要ニ應ジ第五條ニ準ジ糧食ノ給與額ヲ指
 定スルコトヲ得

第五條 俘虜タル文官(高等文官同相當者ヲ除ク)及准士官以下ニ給スル糧食ハ左ノ區
 分ニ依ル

一 主食ニ在リテハ陸軍給與令第九表ノ定量ノ範圍内ニ於テ勞役及其ノ他ニ於ケル國民

食糧配給量等ヲ酌シ收容所長之ヲ定ム

二 賄料ニ在リテハ其ノ他ニ付定メラレタル定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號）糧

食定額並ニ裝蹄料臨時増加ノ件ニ依ル増加額ヲ含ム）以内ニ於テ実費支辨トス

高等文官、同相当者及人員少数ニシテ前各號ニ依リ難キモノニ在リテハ陸軍給與令第

九表ノ食料定額（昭和十五年陸支普第二二四〇號）糧食定額並裝蹄料臨時増加ノ件

ニ依ル増加額ヲ含ム）内ニ於テ実費支辨トス

第六條 存虜ノ被服ハ本人着裝ノモノヲ使用セシム、但シ左記被服ハ之ヲ貸與スルコト

ヲ得

一 寢具（古品トシ古品ナキトキハ新品トス）

二 准士官以下ノ着裝被服ニシテ使用ニ堪エザルニ至リタルトキニ限リ別表第一ノ被服

三 文官ニシテ着裝被服使用ニ堪エザルニ至リタルトキハ別表第二ノ額ヲ超エザル範圍

内ニ於テ國民服ニ準ジ調製シタルモノ

二五

前各號ニ依リ貸與シタル着裝被服ハ本人が解放若ハ死亡ノ際之ヲ本人ニ支給スルコト

第七條 存虜タル文官及准士官以下ノ被服ノ補修ハ別表第三ノ金額以内ニ於テ実費支辨

トス

第八條 陣營具ハ所要ニ應ジ貸與スルコトヲ得

前項陣營具ハ在庫品ヲ應用シ其保續費ハ実費支辨トス

第九條 存虜ノ暖室用薪炭ハ陸軍給與令細則第十二表ニ依リ其ノ他ニ付定メアル歩兵隊

（歩兵隊ナキ場合ハ其ノ他ニ在ル部隊トス）ノ每一人額ヲ基準トシ実費支辨トス

第十條 存虜タル文官及准士官以下ニハ別表第三ノ金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ日用品ヲ

支給スルコトヲ得

第十一條 存虜ニシテ旅行ヲ爲サシムル必要アルトキハ陸軍旅費規則第五表ノ定額（朝鮮

臺灣、樺太、関東州及滿州ニ在リテハ当該軍司令官ノ定ムル額）以内ニ於テ実費支辨ト

四五四

入 但シ單独服役ヲ爲ストキ等前項ニ依リ雖キ場合ニ在リテハ陸軍旅費規 第三表定額
内定費支辨ト爲入コトヲ得

第十二條 停務ノ埋葬ニ要スル費用ハ左ノ金額以内ニ於テ定費支辨トス

准士官以上同相当者

三十円

下士官兵同相当者

二十五円

第十三條 官衙ニ於テ停務ヲ使役スル場合ノ賃金ハ明治三十七年陸運第一三九號ハ停務勞

役規則ノ第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ區分ニ依ル、但シ特種ノ技術ニ従事セシムル者ニハ

本人ノ技術、勤惰、従業時間、従業場所等ヲ斟酌シ更ニ三十五円以内ヲ増給スルコト得

下士官

一日

十五円

兵

一日

十円

第十四條 戦地ニ在リテハ其ノ地ノ最高指揮官前各條ニ準ジテ之ヲ定ム

一之

附 則

本達ハ昭和十七年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年陸普第一二四號(停務文官給與ノ件)及大正七年歐登第一六〇號(停務埋葬費支

辨方ノ件)ハ昭和十七年 月 日限リ之ヲ廃止ス

列表第一

停務貸與被服品員數表

品 目	員 數
略 帽	-
冬 衣 袴	-
夏 袴	-
冬 襪 袴 下	-
夏 襪	-
軍 靴	-
襪	-
靴	-

備 考

一 貸與スヘキ被服ハ古品トシ古品ナキトキハ新品トス

別表第二

文官被服新調費基準額表

階級	冬		夏		冬		夏	
	上	下	上	下	上	下	上	下
將官相当者	6,000	5,000	5,000	4,000	7,000	6,000	6,000	5,000
准尉官相当者	5,000	4,000	4,000	3,000	5,000	4,000	4,000	3,000
准士官相当者	4,000	3,000	3,000	2,000	4,000	3,000	3,000	2,000
下士官相当者以下	3,500	3,000	3,000	2,000	4,000	3,000	3,000	2,000

別表第三

被服補修及日用品定額表

階級	被服補修費(月額)		日用品(月額)	
	上	下	上	下
將官相当者	7,000	5,000	2,000	1,500
准尉官相当者	5,000	4,000	1,500	1,000
准士官相当者	4,000	3,000	1,000	700
下士官相当者	3,500	3,000	1,000	700

居普通第一一四號

昭和十八年三月九日

在敵國居留民關係事務室

特命全權公使 鈴木 萬

俘虜情報局長官 殿

川崎 横浜、神奈川俘虜收容所改善方米國政府ヨリ申上ニ関スル件

二月二十日附居普通第一一四七號ヲ以テ東京及横浜俘虜收容所待遇等ニ関シ申進シ置キタル

トコ口今般更ニ在本邦瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通米國政府ノ要求ヲ直報越シタルニ付

委細同譯文ニヨリ御承知相成度此致申進ス

譯文

第CC一、二、四、CICU 號

一九四三年二月二十四日

瑞西國公使館

瑞西國公使館ハ一月二十二日附第CC一、二、四号ヲ以テ帝國外務省ニ付シ米國政府カ東京附近品川所在俘虜收容所ニ存在スル状態ノ改善方ヲ帝國政府ニ要求スル旨通報スルノ光榮ヲ有シタリ。本件ニ関シ軍當局ノ執ラレタル決定ヲ御通報アラシコトヲ依頼ス。

一方米國政府ハ川崎、横浜及神奈川ノ收容所ニモ同様ノ改善ヲ為サレタキ希望ヲ表明セリ。更ニ同政府ハ左ノ點ニ帝國政府ノ注意ヲ喚起セント欲ス。

一 酒ハ各收容所ニ設置セラル可シ俘虜ノ待遇ニ因スル一九二九年七月二十七日ノ條約ハ其才十二條ニ於テ「各收容所内ニハ酒保ヲ設ケ俘虜ヲシテ地方的市價ヲ支拂ヒテ食料品及日用品ヲ購買シ得セシムヘシ」ト規定シ居レリ。

二 俘虜タル下士官ハ「特ニ報酬約作業ヲ要求セサル限リ」ト監督勞働ニノミ服セシメラルヘシ（同條約才二十七條才三項）。

三 同條約才四十四條才二項ハ「信任者ト軍事官憲及保護國トノ通信ノ為該信任者ハ一切

二七六

ノ便宜ヲ與ヘラルヘシ」ト及「該通信ノ數ハ制限セラレサルヘシ」ト規定セリ。

四 壽府條約才十六條才二項ニ依レハ俘虜ニシテ司教タル者ハ自由ニ同宗派ニ屬スル者ノ間ニ宗教ヲ司ルコトヲ許サルヘマナリ。

米國政府ハ帝國政府カ上記收容所ニ存スル状態ヲ俘虜法典ノ要求ニ合致スル様改善スルノ同等カリ措置ヲ執ルコトヲ切望ス。

斯テ瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ付シ本件米國政府ノ要求ニ関シ帝國政府ノ見解ヲ回報セラレンコトヲ依頼シ茲ニ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表ス。

翻譯文

參照第一三三號

東京俘虜收容所内四名ノ人等 RSM OSCAR CHARLES KEENAN, H600/ニ關スル件

三三三

謹啓貴局益々御隆祥之段奉賀慶候

就テハ貴府赤十字國際委員會經由入手仕候消息ニ依レバ標記ノ存虜ハ眼鏡ヲ必要トスル由ニ御座候

本代表ハ存虜收容所ニ於テハ適當ナル眼科医ノ手當ヲ受ケ得ラルル事實ヲ充分ニ承知仕居候

而シテ若シ標記ノ存虜カ事實眼鏡ヲ必要トスルモノナレハ無論適宜ノ處置ヲ致サレ居ルモノト確信仕候ニモ不拘若シ貴局ニ於テ右御調査ノ上其結果可及的速ニ御通知被成下候ヘハ感謝ノ至リニ奉存候

昭和十八年十一月三十日

敬具

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局 御中

存給第三號

加奈陀人存虜ニ関スル件回答

昭和十九年一月二十日

存虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

参照第一三三號米照首題ノ件左記ノ通回答ス

左記

加奈陀存虜「キーン」ハ昨年三月横浜市五味眼鏡店ニテ適當ナル眼鏡ヲ購入シ現在ソレヲ使用シ居リ何等不便ヲ來シ居ラサルニ付右回答ス

條ニ普通第四三四號

昭和十九年六月二十九日

存虜情報局長 官殿

外務次官

上海俘虜收容所ニ於ケル五名ノ英國人保護人員ノ取扱ニ
関スル英國政府申出ノ件

四二四

本件ニ関シ今般在京瑞西國公使館ヨリ五月十二日附口上書CCノ5101EPIヲ以テ別添寫ノ通
通報アリタルニ付右譯文ト共ニ送付ニ委細右ニテ御了知ノ上何分ノ儀御回示相成度シ

本信寫送付先 陸軍省 海軍省

五月十二日附在京瑞西國公使館口上書CCノ5101EPI

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ対シ英國政府カ赤十字國際委員會ヨリ英國人俘虜ノ「リス卜
一通ヲ受領シタル處之カ中ニハ保護人員ニ屬シ然モ日本官憲ニ依リ保護人員ト認メラレサ
リシ者ノ名カ念マレ居リタル旨ヲ通報スルノ光榮ヲ有ス

右ハ左ノ五名ニシテ英國陸軍衛生部隊 (ROYAL Army Medical Corps) ニ屬シ上海ノ
收容所ニ收容セラレ居ルモノナリ

「ジエー、エー、ジ、エム、リンチ」 (JAGM. Lynch) 陸軍大尉

二二八八外

第三。五一九三五號「ジヨージ・アラン」 (Georges Allan) 伍長

第ニ六三三三七一號「エイチ・ジエー・ダーニー」 (H.J. Darcy) 兵

第ニ三四四三三〇號「アレキサンダー・ブカーン」 (Alexander Buchanan) 兵

第ニ五六八二一七號「トーマス・ムーニー」 (Thomas Mooney) 兵

同公使館ハ帝國外務省ニ於テ關係官廳ニ対シ前記五名ニ保護人員ノ享有スル特權ヲ賦與セ
シムル様幹施ノ務ヲ成ラルルナラバ深謝ニ堪エサルトコロナリ

本件ニ関スル帝國外務省ノ仲介ニ対シ謝意表彰旁々同公使館ハ茲ニ重ネテ外務省ニ向テ深
甚ナル敬意ヲ表ス

存給三七號

上海俘虜收容所ニ於ケル英國衛生人員ノ取扱ニ関スル件

昭和十九年八月九日

俘虜情報局長官

四五五

六月二十七日附條ニ普第四三四號來照首題ノ件ニ関シ上海存虜收容所ニ就キ調査シタル所
該五名ハ捕獲當初香港存虜收容所ニ收容ノ際赤十字條約第二十一條ニ定ムル該記章證明書
等ヲ所持セザリシ爲衛生人員トシテ認めアラザリシヲ以テ上海存虜收容所ニ於テモ衛生人
員ナルコトヲ認めアラザルモノナル旨回答ニ接シタルニ付承知相成度

居普通第七六六號

昭和十九年十一月二十一日

外務省在敵國居留民間係事務室

鈴 木 公 便

存虜情報局長 官 殿

存虜ノ保健衛生ニ関シ英國政府ヨリ申出ノ件

本件ニ関シテハ曩ニ九月七日附居普通第六〇四號往信ノ趣旨ニ依リ英國政府ニ回答方面計
置キタル處今般更ニ在京瑞西國公使館ヨリ別紙譯文ノ通香港存虜收容所ニ於ケル「ガイタ
ミン」缺乏症ニ対スル措置ニ付門合アリタルニ付委細石ニテ御了承相成度

一九四四年十一月十三日附在京瑞西國公使館口上書

假 譯 文

瑞西國公使館ハ帝國外務省ヨリ十月三日附屬普通第九五號電書ヲ受領シ帝國政府ニ於テ
「ハ」存虜ノ保健及衛生ニ関シ深甚ナル注意ヲ拂ヒ居リト毎月存虜ノ健康診断ヲ行フ等ノ措
置ヲ講シ又存虜ニ對シ「ガイタミン」不足ヲ來ササル様ニ米 糠「ガイタミン」劑ヲ與ヘ
居ル旨特ニ通報越ノ次第了承スルノ光榮ヲ有セリ外務省ハ脚氣患者數ハ内地ニ在リテハ
一分弱ニシテ泰國及「ビルマ」ニ在リテモ二分強ニ止ル旨附記セラレタリ
公使館ハ外務省ニ對シ石蘭係國政府へ秘標ノ爲本國政府へ報告セルコトヲ通知スルノ光榮

然ルニ英國政府及自治領政府ハ去ル八月十日赤十字國際委員會代表ガ香港停房收容所ヲ訪
 門セル際ノ報告ニ依リ英國人停房中ノガイタミント缺乏ニ依ル多数患者アルコトヲ承知セ
 ル旨倫敦ヨリ新通牒アリタリ此等政府ハ頗ル不安ニ驅ラレ居レリ
 仍テ英國政府ハ帝國官憲ガ同症驅逐ノ為執ラレ居ル措置ヲ通報ガ希望シ居レリ
 公使館ハ帝國外務省ニ対シ右ニ対スル確言ヲ英帝國政府ニ通報ガ要請傍茲ニ重ネテ敬意ヲ
 表ス

香港占領地總督部全由

香港停房第一一號

停房ノ保健並ニ衛生ニ関スル件回答

昭和二十年二月一日

香港 停房 收容所 長

二九外

停房情報局長官殿

昭和十九年十二月八日附停房第一一號ニ係ル前題ノ件左記ノ通り回答ス

左記

一 醫所ニ於ケル昭和十九年八月以降ビタミン欠乏症ノ種類別(脚氣、腸炎)各國人別患
 者一覽表附第一ノ第二ノ如シ發生新患ニ就キテハ脚氣患者ハ最低〇・一八%ヨリ最高一
 〇・七%ノ間ヲ上下シツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇・一五%ヲ出テス急性腸炎ハ一%前
 後ニシテ其他ノ栄養病(アリテハ一%以下ニ止レリ
 尚入院患者ニアリテハ脚氣ハ最高八・一%ヨリ最低三・八四%ニシテ漸減シツツアリ
 急性腸炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ栄養病ニアリテハ一・七%以下ニシテ何レモ漸次
 減少シツツアリ

二 右防止対策

(1) 治療上

毎日定期的ニ香港陸軍病院ヨリ存房用藥物ヲ受領シアリ(附系第三)
是ヲ以テ見ルモ毎日ビタミン末同Bノ液同B錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シアリテ是
者ノ治療ニ遺憾ナキモノト信ス

(四) 給養上

現在存房ニ就キテハ附表第四 第五ノ如ク給與ヲ實施シツツアリテ算定養價ニアリテ
ハ最高ニ・セ七六〇カロリー・最低ニ〇七〇カロリーナリ然シテ毎月二回ニ亘リ差
入ヲ許シ且勞務者ハ勞役費ヲ得ルヲ以テ存房酒保ヨリ罐詰(牛肉、魚肉、野菜、豆筍)
ヲ購入シ得ヘリ更ニ毎月報告ノ如ク自營栽培並ニ養鶏養豚ニヨル收穫物相當量アリテ
營養上ニツイテハ充分ナリ尚將來ハ益々自營栽培等ヲ増強セシメアルヲ以テ更ニビタ
ミン欠乏症患者ノ減少ヲ期待シ得ヘシ

(五) 其他

毎朝約三十分ニ亘リ心入保健体操ヲ實施シ戶外遊戯散步入浴等ヲ獎勵シアリテ保健狀

二九〇

態ハ良好ナリ

三 右ノ反駁資料

(一) 氣候風土ニ對スル存房體質ノ虛弱實ナキヤトノ照會アリシモ官所ノ存房就中白人存
房中英人ハ數年上着セルモノニシテ氣候凡土ニ概不馴化シアリタルト思フシ得ヘク如
茶配人存房ハ大東亞戰勃発約三週間前ニ到着セルモノニシテ前居住地ハ、ジャマイカ
ニシテ英人ニ比シテ体カ稍、劣弱ト思考ナル其他英勇軍ハ殆ト香港生シ乃至ハ香港ニ永
住セシモノニシテ氣候凡土ニ慣馴シアルヲ以テ考房スルノ要ナシ

(二) 治療上成シ得ル限り香港陸軍病院ト緊密ニ連絡シビタミン剤ノ確保ニ萬全ヲ期シツ
ツアルモ藥品ハ病院自体ニ於テモ一般ニ欠乏シアル状態ニシテ存房ノ爲特別ノ便宜ヲ
得ルニ至ラス

対策トシテハ第一項給養上ノ施策ニ迷ヘタル如ク現地自營栽培ヲ更ニ強化シビタミン
欠乏症ノ減少絶無ヲ期シツツアリ

英 加 其他 (白人) 國籍別各月未現在入院患者一覽表

月別	八月			九月			十月		
	英	加	其 他	英	加	其 他	英	加	其 他
脚氣	八二	五〇	四	八四	五〇	四	八七	四七	四
急性腸炎	二六	二		六	二		五	二	
其他ノ榮養病	一九	一		八	一		二	一	
摘要									
計	一一〇	五三	四	一〇六	五二	四	一〇九	五三	四
	(10.15)	(9.15)	(0.15)	(9.15)	(9.15)	(0.15)	(10.15)	(9.15)	(0.15)

備考

- 一 括弧内ハ總員(白人)ニ対スル百分比
- 二 国籍別中其ノ他トアルハ白人ヲ示ス

月別	十一月			十二月		
	英	加	其 他	英	加	其 他
脚氣	四三	一九	三	四三	一九	三
急性腸炎	一	一		一	一	
其他ノ榮養病	七	三		八	三	
摘要						
計	五〇	二三	三	五二	二三	三
	(10.15)	(9.15)	(0.15)	(10.15)	(9.15)	(0.15)

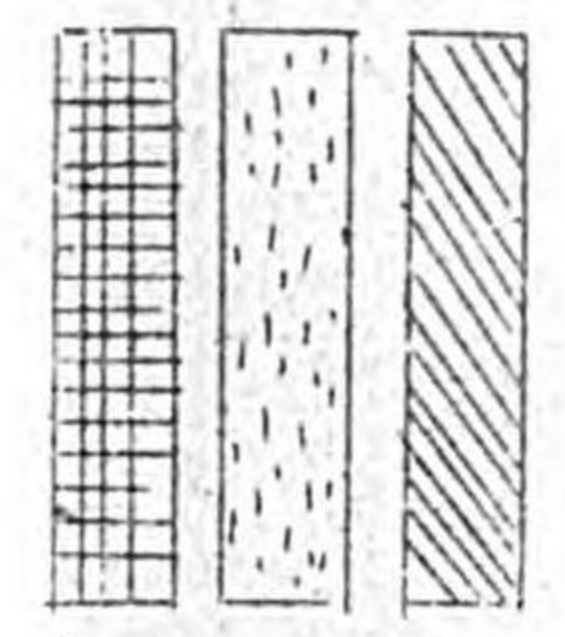
肝油	ビタミンB ₁	ビタミンB ₂	ビタミンB ₆ 液	五	
				目	月
油	豆	錠	液	時	月
〃	〃	〃	〃	〃	〃
二〇〇〇	一五〇〇	八〇〇〇	三五〇	入	月
五〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇	九	月
五〇〇	三〇〇〇	—	三五〇	十	月
五〇〇	—	一〇〇〇	三五〇	十一	月
五〇〇	—	一〇〇〇	二五〇	十二	月

附表第三

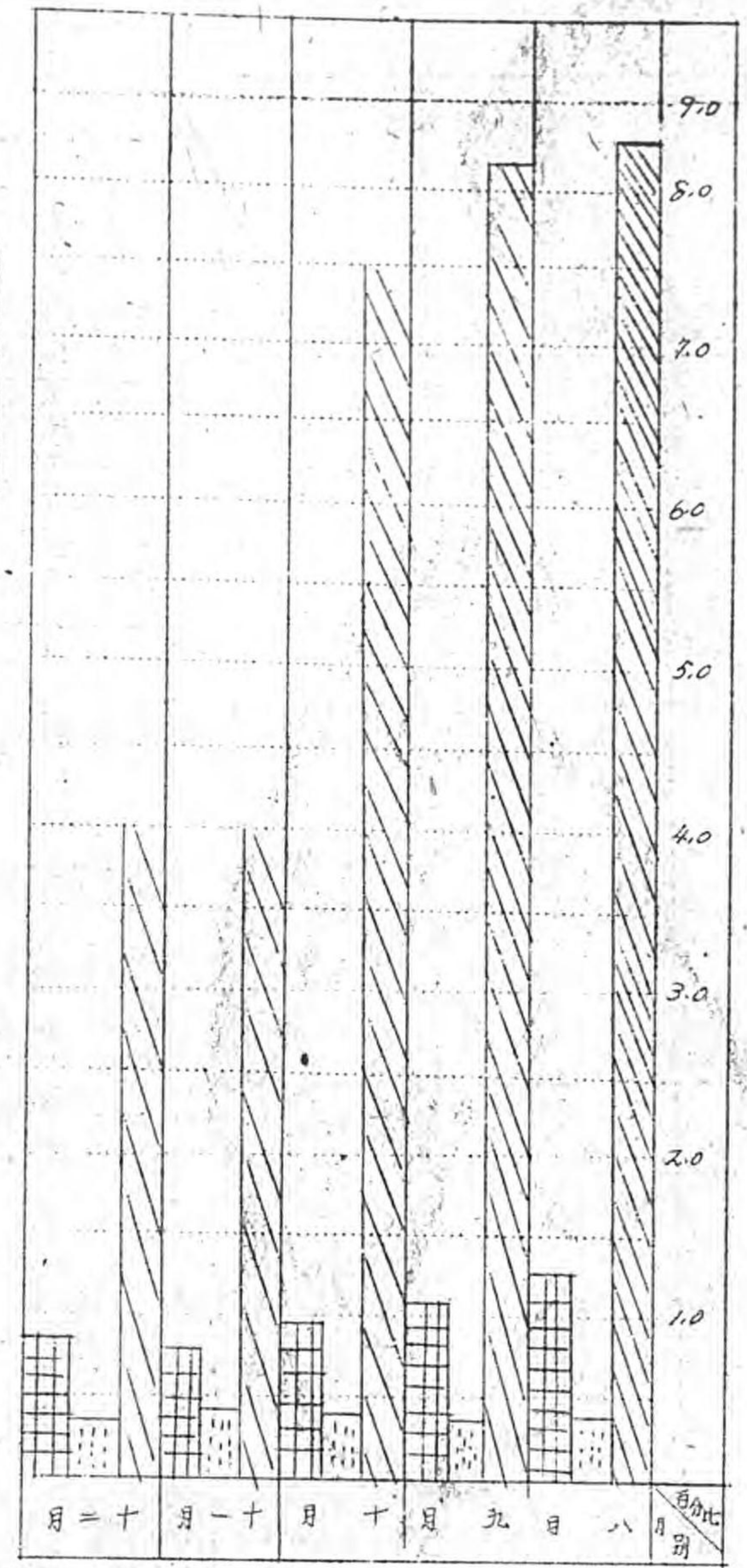
香港陸軍病院ヨリ受領セル存庫用藥物

四四

病 者



脚 氣
急 性 腸 炎
其 他 營 養 器 病



附表第二 入院患者病類別統計表 (百分比)

四四

附表第四

給養定置 (勞務ニ服スルモノ)

區分	數量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養價
現地米	六〇〇	三二八	二二	四七二〇	三〇三六
大豆	四	一一一	〇六	〇五	一一八
冷凍魚	一一〇	二一九	三八	〇五	一一二八
生野菜	五〇〇	六〇	〇七	三五	一七〇七
香辛料	五	—	—	—	—
砂糖	一五	〇一	〇三	一五	—
食塩	五	—	—	—	—
茶	三	—	—	—	—
食油	四〇	—	四〇〇	—	—
計		六一九	四六二	五三八	二七五〇九

附表第五

給養定置 (勞務ニ服セサルモノ)

區分	數量	蛋白質	脂肪	含水炭素	養價
現地米	四八〇	二六三	一七	三七七六	一六三〇九
大豆	三	〇九	〇五	〇四	九七
冷凍魚	六〇	一九九	一四	—	五六三
生野菜	三二四	三六	〇四	三二八	一〇九二
香辛料	一	—	—	—	—
砂糖	五	—	—	—	—
食塩	五	—	—	—	—
茶	三	—	—	—	—
食油	四〇	—	二〇〇	—	—
計		六一九	四六二	四〇五五	二〇〇五〇

昭和二十年三月二十六日

俘虜情報 局長官殿

外務省在歐國居留民關係事務室

鈴木公使

香港ニ於ケル俘虜ノ保健及衛生ニ関シ英國政府申出ノ件

昭和十九年十一月二十一日附居普第七六六號ヲ以テ既ニ照會致シ置キタル本件ニ関シ千ハ
香港俘虜收容所長ヨリ貴長官宛報告香港俘虜情報第一一號ニ基キ別添口上書案ノ如ク回答致シ
度存居ル處右ニテ差支ナキヤ折返シ何分ノ儀御回示相成此致依頼申進ス

在京瑞西公使館宛口上書案

帝國外務省ハ瑞西公使館ニ對シ一九四四年十一月十三日附口上書CC一・三・六EGMニ関シ左
記通達スルノ光榮ヲ有ス

帝國公使館ハ瑞西公使館ニ對シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

記

一 香港俘虜收容所ニ於テハ「ビタミン」缺乏症防止対策トシテ左ノ措置ヲ講シツツアリ

(1) 毎月定期的ニ在香港帝國陸軍病院ヨリ俘虜用藥物ヲ受領シツツアリテ毎月「ビタミン」

「B」水、同「B」液、同「B」錠及肝油ハ最低必要量ヲ受領シマリテ患者ノ治療ニハ遺憾

ナキモノト認ム

(2) 現在俘虜ハ最高ニ「七七六」カロリー「最低」ニ「〇七一」カロリーヒノ給與ヲ受ケ毎月

二回差入ヲ許サル

勞務者ハ勞務費ニテ俘虜酒保ヨリ罐詰（牛肉、魚肉、野菜、豆等）ヲ購入シ得

野菜自營栽培及養鶏、養豚ニヨル收穫量相當アリ

以上ニテ栄養上ハ充分ナリ

(3) 毎朝約三十分必ス保健体操ヲ實施シ戶外遊戯散步入浴等ヲ奨励シマリテ保健狀態ハ
良好ナリ

(二) 右ノ結果トシテ同所ニ於ケル一九四四年八月以降「ビタミン」缺乏症ノ種類別(脚氣、肺炎等)各個人別患者一覽表附表第一ノ第一ノ如クシテ新患ニツキテハ脚氣患者ハ最低〇・一八%ヨリ最高一・〇七%ノ間ヲ上下シツツアリテ急性胃炎ニアリテハ〇・一五%ヲ出テス急性肺炎ハ一%前後ニシテ其他ノ營養器病ニアリテハ一%以下ニ止レリ

尚入院患者ニアリテハ脚氣ハ最高八・一九%ヨリ最低三・八四%ニシテ漸減シツツアリ急性肺炎ハ最高一%ヲ出テス其他ノ營養器病ニアリテハ一・七%以下ニシテ何レモ漸次減少シツツアリ

(香俘情第一一號附屬ノ附表第一、第二略)

(瑞西公使館ニ出入場合ハンノ附表ヲ貼附ノコト)

①
俘匠第三號

香港ニ於ケル俘虜ノ保健及衛生ニ関シ英西政府申出ノ件

昭和二十年四月二十一日

俘虜情報局長 官

外務省在敵國居留民関係事務室

鈴木 公使 殿

昭和二十年三月二十六日附居秘第一七六號ニ依ル前題ノ件貴見ノ通ニテ差支無之但シ記一ノ以中「最低必要量ヲ受領シアリテ」ヲ「必要量ヲ受領シアリテ」ニ訂正セラレ度

参照第八六〇號

一 旨目 俘虜ニ関スル件

昭和二十年四月十四日

赤十字國際委員會駐日代表部

俘虜情報局 殿

貴局宛榮書参照才六四七號、昭和十九年十一月十八日附及参照才七七二號昭和二十年二月二十五日附ヲ以テ左記敬願仕候件御参照被下度候

左記

- 一 盲目存房名簿ヲ國籍別、收容所名、及盲目トナリタル原因ヲ付シ尋府赤十字國際委員會宛電報ヲ以テ御通報相受ケタキ事
 - 二 日本軍當局御管轄下ニ於ケル盲目存房ニ対スル特別治療方法ニ関スル情報
 - 三 日本軍當局ニ於テ示顯支障ナシト御考慮相成ル盲目存房ニ関スル情報
 - 四 英國政府ノ提議ニ係ル盲目存房ニ対シ或ル特種ノ訓練、例ヘバ日本人盲目者ニ対シ按摩術ヲ習得セシムルカ如キヲ実施スル件
- 以上
- 本代表部が只今入手仕候通知ニ依レバ英國政府ハ前記情報以外ニ左記ニ関スル存房名簿ヲ可及的速ニ電報ヲ以テ尋府委員會宛御通報方依頼越候
- (1) 視カフ一時的損シ居ル者及其程度、原因附記サレタシ

四八二

(四) 視カフ永久的且ツ不治的ニ損シ居ル者及其程度、原因附記セラレタシ
右名簿ハ國籍及收容所別ナルコト

英國政府ニ於テハ多数ノ存房ガコソイタミンレ不足ニ起因シテ眼病ヲ病ヒ居ルコトヲ認知セルモノ、如ク且又存房ヨリノ通信中少ナクトモ或者ハ視カフ非常ニ害シ不治的ニ損シ居ル旨通報ナシ居ルモノ、如 御座候

以上

存給才ニ四號

盲目存房ニ関スル件回答

昭和二十年四月二十八日 存房情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

四月十四日附参照才八六。號ニ依ル旨題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニテハ「コソイタミン」缺乏ニ因ル失明存房ナキニ付承知相成度

四八三

尾取才ニ一〇號

昭和二十年四月十日

外務省敵國居留民關係事務室

鈴木公使

存虜情報局長官殿

矢明存虜及「ビタミン」飲食ニ依リ視力ヲ冒サレタル
存虜名簿入手方ニ関スル件

本件ニ関シ瑞西公使館ヨリ別紙寫ノ通り矢明存虜及「ビタミン」飲食ニヨリ視力ニ障害ヲ
受ケ矢明同業トナリタル存虜名簿ノ入手方申越アリタルニ付テハ委細右ニテ御了知相成御
取調ノ上何分ノ儀御回示相成度此致依頼申進ス

一九四五年四月六日附外務省宛瑞西公使館
口上書 CC一五二〇 FGC

日本視力下ニアル失明存虜ニ関スル累次ノ通報ニ関シ瑞西公使館ハ帝國外務省ニ對シテ英
國政府ハ最近ノ通報ニ於テ此等存虜名簿ヲ入手致度希望ヲ表明セルコトヲ通報スルノ光榮

ヲ存ス

尚英國政府ハ「ビタミン」飲食ニヨリ一時的ニ視力ヲ冒サレタル相当數ノ存虜カ極東ニア
ルコトヲ指摘セリ然ル處中ニハ甚タ憂フヘキ状態ニ於テ冒サレ居リ其中ノ數名ハ永久ニ失
明スルニ至ルヘシト認めラル。英國政府ハ此等存虜名簿モ亦同様ニ承知致度同政府ハ特ニ
香港ニハ點ソトモ本件ニ関スル存虜ニ名アルコトヲ指摘セリ
瑞西公使館ハ英國政府ニ其ノ要求スル情報ヲ供給シ得ル様帝國外務省ニ依頼スルト共ニ此
ノ機會ニ茲ニ重ねテ敬意ヲ表ス

存給才ニ三号

矢明存虜及「ビタミン」飲食ニ依リ視力ヲ冒サレタル存虜名簿
入手方ニ関スル件回答

昭和二十年四月二十八日

存虜情報局長官

外務省敵國留民関係事務室

鈴木公使殿

四月十日附居取手ニ一。号ニ依ル旨題ノ件ニ関シ現在ノ調査ニテハ「ビタミン」缺乏ニ
ル失明存虜ナキニ付承知相成度

③
7

譯文

參照第一。五ニ罷

一 旨目存虜ニ関スル件

昭和二十年七月二十八日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局殿

標題ノ件ニ関スル貴局宛書昭和十九年十一月十八日付參照才六四七號昭和二十年二月

一三三ロ

十五日付參照才七七ニ號及同年四月十四日付參照才八六。號ニ関シ更ニ壽府委員會ヨリ
報ヲ以テ日本軍御當局ニ於テ右ニ對スル御取扱ヒ方御決定相成候ヘバ其趣キ御通知方經
致シ末リ申候

右壽府表電中ニ壽府委員會ハ該問題ニ對シ非常ナル関心ヲ有シ居ル旨表示致シ居リ候ニ
何卒至急御回答被成下候ハバ奉謝候

回答

各收容所ニ收容シアル失明（完全）存虜人員當局ニ通報セラレアルヲ以テ之カ收容所
人員ヲ通報且待遇ニ関シテハ附添人ヲ附シ充分保護シアリ附與スヘキ特異ナル技術ニ關
テ目下ノ処考慮シアラス

譯文

參照才七七ニ號

四六

四六

一 盲目 存虜ニ関スル照會ノ件

謹啓陳者貴局宛弊書一九四四年十一月十八日附參照第六回ニ號御參照被下度御願申上候
右ニ関聯シ只今壽府委員會ヨリ電報ヲ以テ右記事項御電通方懇請致末リ申候

左記

- 一 永久的(不治)盲目 存虜ノ国籍別存虜名簿特ニ香港及其他ノ地域ニ於ケルモノ
- 二 右名簿ニハ盲目トナリタル原因附記願上候

右御調査被成下候ヘハ誰有奉蒙謝候而シテ前ニ弊書參照オ六四七號ヲ以テ御願申上候件及
此ノ新シキ款願ニ對スル貴局ヨリノ御回答ヲ期待仕候

尙前記壽府末電ニ依レバ同委員會ニ於テハ特ニ香港存虜收容所内矢 G. R. Bickley
認識卷號 7363368ニ関スル明細御通知被成下候事ニ對シ関心ヲ有シ居ル旨申越候

本代表部ハ右ニ對スル貴局ヨリノ御回答ヲ関心ヲ以テ期待仕リ候

敬 貝

昭和二十年二月二十五日

赤十字國際委員會駐日代表部

一三〇外

存虜情報局殿

4

譯文

參照第一。九七號

一 盲目 存虜ニ関スル件

昭和二十年八月二十二日

赤十字國際委員會駐日代表部

存虜情報局殿

貴翰一九四五年四月二十八日附存救才ニ四號難有落手仕候

同貴翰ハ漸ク七月三十一日日本代表部ニ於テ入手仕申候

右貴翰ニハ貴局弊書參照オ八六〇號ニ對スル最後項目ニ對スル御回答ノミテ甚ダ残念ニ存
候故ニ此ノ機會ニ壽府委員會可及的速ニ御回答ヲ希望仕候件ニ関シ御記憶ヲ喚起スル意

味ニ於テ左記ノ通再提出仕候

左記

寄府委員会へ打電仕候必要上左記御回答願上候

- 一 盲目存虜名簿國籍別收容場所及盲目トナリタル原因
- 二 存虜名簿但シ一時的視カヲ多様ナル角度ニ害セル者ニシテ其ノ者ニ関スル國籍別收容場所及其原因
- 三 存虜名簿但シ永久的且ツ治療ノ見込キ点キ迄ニ多様角度ニ害セル者ニシテ其國籍別收容場所及原因
- 四 盲目存虜特色治療ニ関スル資料
- 五 英國政府ヨリ提議セル特種技能例へバ盲目日本人ニ按摩ヲ教授スルカ如キ方法ヲ実施セラレアルマ
- 六 右ノ外ノ資料ニシテ盲目存虜ニ関シ日本軍当局ニ於テ御示願願ヘルモノ

以上

存給第四八號

盲目存虜ニ関スル件回答

昭和二十年八月三十一日

存虜情報局 氏官

赤十字國際委員會

駐日代表 殿

昭和二十年八月二十二日附奉照第一。九七號ヲ以テ奉照首題ノ件左記ノ通り回答ス

左記

- 一 第一、二、三項ニ関シテハ別紙連名簿ノ如シ
- 二 第四項ニ関シテハ醫療用トシテ肝油、ビタミン劑ノ増加給與及義眼、眼鏡ヲ使用セシメアリ
- 三 第五項ノ特種技能修得ニ関シテハ特ニ考慮シアラス

参照才八一ニ號

譯文

- 一 俘虜軍医ニテ俘虜收容所内ニ於テ専門医トシテ従事スル者
- ニ対シ證明書交付ニ関スル件

謹啓陳后

俘虜收容所及又ハ俘虜病院ニ於テ一ヶ年以上経験ヲ有スル専門医トシテ仕事ニ従事セル者
 キ俘虜軍医ノ爲メニ證明書ヲ発行スル件ニ関シ壽府赤十字國際委員會ハ提議ヲ茲ニ御通知
 申ヒル光榮ヲ肩候 斯カル専門医トシテノ證明書ハ所持者カ後日歸國仕候節非常ニ有益ト
 ナルモノニ御座候此ノ方法ハ英領印度ニ於ケル伊太利人俘虜間ニ開始サレ非常ナル稱讚且
 感謝致サレ居申候

壽府委員會ノ提議ハ下記通りニ御座候

即チ關心ヲ有スル俘虜軍医ハ收容國例ノ收容所軍医ノ發行ニ係ル證明書ニ收容所先並俘虜

中斷

一頁半

軍医カ裏書キシタル原書ヲ受領ス、其高一通ハ收容所當局ニ於テ保管ケレ、一通ハ先並俘虜
 軍医ニ手交シ尚一通ヲ壽府赤十字國際委員會ヘ送達ノ爲メ同委員會代表部ヘ御送附相受
 クルモノニ御座候

數年間收容サレ居候多數ノ若キ軍医ニトリ非常ナル利害關係ヲ有スル前記提議ヲ御研究ナ
 シ被下候ヘバ壽府委員會ノ最モ感謝仕ル次才ニ御座候本代表部ハ前記提議ニ対スル貴局ノ
 御受諾如何ニ対シ關心ヲ持チ待望仕居候

敬 吳

昭和二十年三月九日

赤十字國際委員會

駐日代表部

俘虜情報局 殿

俘給第一一號

俘虜軍医中俘虜收容所内ニ於テ専門医トシテ従事スル者
ニ対シ證明書交付ニ関スル件

昭和二十年四月十八日

俘虜情報局

赤十字國際委員會駐日代表部 御中

三月九日附参照才八一ニ號ニ依ル旨題ノ件ニ関シ當局ニ於テハ烏シ得ル範圍ニ於テ便宜ヲ
與フルコト差支ナキニ付承知相成度

内ニ

一九二一	政府、抗議文送付ノ件	瑞西公使館	全般
一八八〇	家族抑留者同居措置ニ関スル件	瑞西國外務省	全般
一八九二	抑留船員ノ待遇ニ関スル件	羅馬法王庁使節	函館、東京、大阪、福岡
	加特カ教徒タル俘虜、爲最後ノ聖餐ニ神父 立会方ノ件		

二 俘虜個人ノ待遇ニ関スル事項

年月日	抗議事項	来翰先	摘要
二〇八一	英國人俘虜陸軍少佐 William M. Stewart, R.A.M.C.ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

年月日	抗議事項	来翰先	摘要
一九二一	大阪俘虜收容所收容中ノ英人「スミス」及「ウィリアムス」ノ取扱方ノ件	瑞西國公使館	大阪收容所
二〇一五	陸軍大將 Mc Crae ノ身分ニ関スル件	駐日代表部	俘虜情報局
一九九八	上海俘虜收容所ニ於ケル五名ノ英國人俘虜ノ取扱ニ関スル英國政府申出ノ件	瑞西國公使館	上海收容所
一九二二	米國汽船「スタンザア」カルクッタ及「ダブリュー」エフ、 「ハムフレ」号及「アウスト」号乗組員ニ関スル照会ノ件	同	東京大阪福岡馬末 爪哇收容所
一八三六	目下京城俘虜收容所ニ收容中ノ濠洲赤十字社代表 Richard Phillips ノ身分ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

五〇二

頁

外三

一八七四	宗職ニ從フ俘虜又ハ抑留者ノ待遇改善方ノ件	赤十字國際委員會	全般
------	----------------------	----------	----

三、俘虜ノ懲罰ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發翰先	摘要
二〇六三	在朝鮮英國人俘虜ノ處罰ニ関スル件	瑞西公使館	朝鮮收容所
一九九九	於西貢刺殺俘虜ニ関スル件	同	泰俘虜收容所
二〇二二	函館俘虜收容所ニ於ケル英國人俘虜處罰ノ件	同	函館俘虜收容所
外務省 二〇一六	元香上銀行理事長「グレイバーン」ノ取扱ニ関スル件	同	香港俘虜收容所
外務省 二〇一五 (一九七三)	ル件		

五〇三

四、俘虜ノ通信ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一七、三二	英國政府ヨリ俘虜及抑留者發受ノ書翰送達業務設置方申立ニ関スル件	アルゼンチン國在米代理大使	全報
一八、一三	在香港加奈陀人俘虜ニ対スル郵便物配布ニ関スル件	瑞西國公使館	香港俘虜收容所
外務省 一九、二二	台灣ニ於ケル俘虜及抑留者ノ通信ニ関スル件	同	台灣俘虜收容所
一九、二九	日本ノ手中ニ在ル俘虜宛通信ニ関スル件	赤十字駐日代表部	全報
一九、六四	極東米國行郵便物ニ関スル件	同	同
外務省 一九、四四	俘虜抑留者郵便ニ日附記載許可方ニ関スル件	瑞西公使館	同

五、災害俘虜ノ救恤ニ関スル事項

一九、二一	東亞圈内ニ於ケル俘虜抑留者宛郵便物ノ件	赤十字駐日代表部	全報
一九、三三	在舊蘭印俘虜及非戦闘員抑留者並ニ在「タイ」國俘虜ノ通信ニ関スル件	瑞西國公使館	スマトラ ジャバ 俘虜收容所

内三

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
外務省 一八、三三	勞働災害ノ罹災者タル俘虜ニ対スル賠償ノ件	瑞西國公使館	全報

六 救恤品補給ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發翰先	摘要	頁
一七九二五	米國人俘虜及抑留者ニ対スル救恤品補給ニ 関スル米國政府ヨリ申入ノ件	瑞西國公使館	全般	
一七九〇二	瑞典赤十字社ヨリ申出ノ比島抑留米人ニ対 スル救恤金送付許可ニ関スル件	瑞典國公使館	比島俘虜收容所	

七 給與ニ関スル事項

年月日	抗議事項	發翰先	摘要	頁
一七二一五	將校俘虜ノ給與ニ関スル米國政府ノ提議ニ 関スル件	瑞西國公使	全般	
一七四三八		同	同	
一七五一	在英國抑留人ノ給與等ニ関スル英國政府ノ 申出ノ件	亞爾然丁國大使	同	
一七五一	俘虜ノ俸給ニ関スル英國政府申入ノ件	同	同	
一七五九	米國政府ノ俘虜將校俸給特別協定締結方申 入ノ件	瑞西國公使	同	
一七二三	俘虜ノ金錢收入ニ関スル米國政府ノ提案ニ 関スル件	同	同	
一七八二	俘虜及抑留者ノ勞務賃金ニ関スル米國政府	同	同	

年月日	抗議事項	發輪先	摘要
一八六七	ノ提議ニ関スル件 俘虏ノ本國送金ニ関スル件	駐日代表	全般
一八三九	英國人俘虏ニ対シ食糧改善方申出ノ件	瑞西國公使館	同
一九三三	俘虏及抑留者ニ対シ玄米支給量増加ニ関スル件	駐日代表部	同
一九五五	俘虏タル和蘭陸軍中將「テイバック」ニ対シ俸給支給方ノ件	瑞西國公使館	台灣收容所
一九八三	俘虏タル英國商船員ニ対スル告知傳達方ノ件	同	全般
一九七三	俘虏ノ預金ヲ日本支配下ノ近親者宛送金ニ関スル件	駐日代表部	台灣收容所
二〇四六	英國人俘虏ニ支拂ハレル給料ノ件	同	同

五〇八

俘虏ニ関スル抗議ニ関シ俘虏情報局及俘虏管理部が處置シタル事柄ヲ記録シアル書類ノ寫シ

件名	件数
一、俘虏ノ取扱(待遇)ニ関スル事項	三六
二、俘虏個人ノ待遇ニ関スル事項	七
三、俘虏ノ懲罰ニ関スル事項	四
四、俘虏ノ通信ニ関スル事項	八
五、災害俘虏ノ救恤ニ関スル事項	一
六、救恤品補給ニ関スル事項	二
七、給與ニ関スル事項	一七
八、衛生ニ関スル事項	八

四九五

一、俘虜ノ取扱(待遇)ニ関スル件

年月日	抗議事項	未翰先	摘要
一九六九	俘虜ノ取扱振リニ對スル米國政府ノ抗議文送付ノ件	瑞西國公使館	東京及大阪收容所
二〇二二	川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ對スル米國政府抗議送達ノ件	同	川崎收容所
一九三四	俘虜ヲ公衆ノ好奇心ヨリ保護方ノ件	同	横濱收容所
一八八七	大阪俘虜收容所ニ関シ米國政府ヨリ申出ノ件	同	大阪及神戸收容所
一八三一	善通寺收容所ニ差入ノ書籍雜誌ニ関スル件	同	善通寺收容所
一九二四	俘虜ノ取扱ニ對スル英濠兩政府ノ抗議ニ関スル件	同	恭「ビルマ」收容所

内二

一八三三	京城及仁川收容所改善方ニ付瑞西公使館ヨリ申出ノ件	瑞西國公使館	京城及仁川收容所
一八三三	善通寺收容所改善方ニ関シ瑞西國公使館ヨリ申出ノ件	同	善通寺收容所
一九六三	「ビルマ」及恭ノ俘虜待遇ニ関スル件	赤十字國際委員會委員長	「ビルマ」及恭收容所
一九七四	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	瑞西國公使館	「ビルマ」收容所
一九〇二	「ビルマ」ニ於ケル印度人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
一九二五	「ビルマ」ニ於ケル俘虜訊問ニ関スル件	同	同
一九一八	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
二〇一三	「ビルマ」ニ於ケル英國人俘虜取扱ニ関スル件	同	同
二〇三九	在「ビルマ」英國人俘虜ニ對スル取扱ニ関シ英	同	同

年月日	議事項	末翰先	摘要
一九二四	國政府申出傳達ノ件 在西貢米人俘虜ノ取扱ニ関スル件	瑞西國公使館	西貢收容所
二〇三三	比島ニ於ケル俘虜待遇ニ関シ米國政府抗議ノ件	同	比島收容所
一九五九	上海ブリッヂハウス監獄ノ英國人取扱ニ関スル件	同	上海
二〇一六	俘虜收容所ノ地位及之カ防空施設ニ関スル英國側ノ申出ニ対スル回答ニ関スル件	同	台湾、東京收容
二〇三二	〃	同	全般
二〇四三	英國政府ノ一九四四年六月赤十字國際委員	同	台湾收容所

四九八

外二

一八九七	昭南「チヤンギ」抑留所ノ待遇ニ関シ英國政府ヨリ申出ノ件	瑞西國公使	「チヤンギ」抑留所
一九一〇	在佛印米支俘虜取扱ニ関スル件	赤十字國際委員會	西貢收容所
一九二五	帝國境內ニ於ケル俘虜及抑留者ノ待遇ニ関スル米國政府抗議送付ノ件	瑞西公使	全般
一九五八	一九四二年十二月二十三日附対日抗議ニ対スル回答ノ件	全般	全般
二〇四七	「ニューギニア」アイタベニ於ケル米國人飛行士ニ対スル取扱ニ関シ米國政府抗議ノ件	瑞西國公使館	「ニューギニア」

四九九

年月日	抗議事項	来翰先	摘要
二〇、四、一七	西南太平洋諸島ニ於ケル印度人俘虜取扱ニ関シ英國政府抗議ハ件	瑞西國公使	西南太平洋諸島
二〇、八、三	在「スマトラ」抑留者ノ取扱ニ関シ英國政府申入ノ件	瑞西國公使館	「スマトラ」抑留所
一九、三、三〇	台湾俘虜收容所ニ関シ英國政府申出ノ件	同	台湾收容所
二〇、六、二	死亡俘虜ノ死体處理ニ関シ英國政府申越、件	瑞西國公使	東京收容所
一八、八、三〇	泰俘虜收容所ノ俘虜取扱ニ関スル件	同	泰收容所
一八、〇、七	「タイ」俘虜收容所ノ待遇ニ関シ英國政府ヨリ重ネテ抗議ノ件	瑞西國公使館	同
二〇、七、五	「タイ」國ニ於ケル俘虜ノ取扱振ニ対スル米國	同	同

五〇

八 衛生ニ関スル事項

一九、三、二六	元「グアム」島其他ニ就働セル米國人非戦闘員ニ対シ給與規定傳達方ニ関スル件	瑞西國公使館	東京大阪神戸、普通寺福岡及上海收容所
二〇、八、三	帝國権内ニアル俘虜抑留者ノ給養ニ関シ米國政府申越ノ件	同	全般
一八、二、三〇	川崎横浜神奈川、俘虜收容所改善方米國政府ヨリ申入ニ関スル件	同	川崎横浜神奈川收容所

年月日	抗議事項	發翰先	摘要
一八、二、三〇	東京俘虜收容所内加奈陀人俘虜 RSM OSCAR CHARLES KEENAN, H6001ニ関スル件	駐日代表部	東京收容所

五九

1802

Proj. No. 218

S. A. No.

Sack No.

Item No. 2 ~~1802~~

俘虜ニ関スル抗議ニ関シ俘虜情報^局及俘虜管理部が
處置シタル事柄ヲ記録シタル書類ノ寫

俘虜情報局

回報書

郵政省

件ノ付送書券

日十月三年一十二

中領國書院

Vertical text columns on the right side of the envelope, including recipient and sender information.

尾普通合第 二六〇 號

昭和二十年六月二十六日

外務省在歐国居留民関係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

俘虜ノ取扱振リニ対スル米國政府ノ抗議文送付ノ件

Main body text of the letter, starting with '今般在本邦瑞西国公使館ヨリ'.

本信送付先 陸軍省軍務局長 俘虜情報局長官

(一九四四年六月九日附外務省宛在野井沢瑞西国公使館

口上書取訳

瑞西国公使館ハ帝國外務省ニ対シ左記通牒ノ日本国政府宛送達方米国政府ヨリ依頼アリタル旨申進スルノ光榮ヲ有ス

米国政府ガ信憑スヘキ筋ヨリ得タル情報ニ據レハ日本ニ拘留セラレ居ル米国人俘虏ハ依戰行動ニ直接関係アル労働ニ過度ノ時間ニ亙リ従事セシメラレ居ル由ナリ 彼等ハ呂川取灯岸東京湾岸海軍「ドック」及呂川要塞内ニ於テ強制的ニ労働セシメラレ居レリ 東京及大阪西地ニ於テ彼等ハ屈辱ト肉体的苦痛ヲ齎ス極端ニ苛酷ニシテ峻最ナル制度ノ下ニ置カレ且殴打ヲ以テ臨ム看守兵ノ残酷ナル取扱ヲ受ケ居レリ 米国政府ハ日本政府ニ対シ其ノ手中ニ在ル米国人俘虏ノ待遇振ニ付強硬ナル抗議ヲ提起ス 右待遇ハ日本政府ノ自恣的ニ其ノ拘留中ノ米国人俘虏ノ待遇ニ付之カ條項ノ適用方ヲ同意セル壽府俘虏條

一

約並ニ日本政府カ批准シ且西班牙国大使館ヨリ米国政府ニ稜報セラレタル一九四四年五月三日附日本政府ノ覚書中ニテ同政府ニ於テハ非戦闘員拘留者及俘虏ノ取扱ニ際シ之ヲ適用シ居ル旨申越シタル一九〇七年海牙條約ニ違反スルコト甚シキモノナリ 壽府俘虏條約ハ第三十一條ヲ以テ俘虏ニ依リ爲サルハ労働ハ作戰行動ニ直接関係ナキモノタルヘキヲ規定セリ 又海牙條約ハ第六條ヲ以テ俘虏ニ依リ行ハルコトハ過度ナラサルヘク且、戰爭行動ト關係ナキモノタルヘキコトヲ明記セリ 壽府俘虏條約第二條及海牙條約第四條ニ於テハ俘虏ハ敵国政府ノ權下ニ屬シ之ヲ捕ヘタル囚人又ハ部隊ノ權下ニ屬スルコトナク人道的待遇ヲ受クヘシト規定セラレ居レリ 米国政府ハ上述ノ事態カ直ニ改善セラル、様要求シ日本国政府及關係各個人ハ海牙條約及壽府俘虏條約規定カ米国々籍ノ俘虏ノ待遇上ニ於テ當時適用セラル、様保障シ得ルニ於テハ其ノ責任ニ任スヘキモノナルコトヲ同政府ニ警告ス

本公使ハ茲ニ重ネテ外務省ニ向ツテ敬意ヲ表ス

俘給第三九號

俘虜取扱振リニ対スル米國政府ノ抗議ニ関スル件回答

昭和二十年七月二十日

俘虜情報局長官

外務省在敵国居留民関係事務室

鈴木公使殿

昭和二十年六月二十六日附屬普通令第ニ六〇號ヲ以テ終会アリタル首題ノ件ニ関シ当局ニ於テ調査セル結果米國政府ヨリ指摘シ承レルガ如キ勞務ニ服セシメタル事實ヲ認めズ
追而如斯情報ハ如何ナル根據ニ基クモノナリヤ出所ニ関シ調査方取計相成度

外二

居普通第一三二號

昭和二十年三月八日

外務省在敵国居留民関係事務室

鈴木公使殿

俘虜情報局長官殿

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ対スル米國政府抗議送達ノ件

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ関シ在京瑞西國公使館ヨリ二月二日附口上書ヲ以テ別添同口上書取込ノ通り米國政府ノ抗議ヲ申越シタルニ付テハ委細右ニテ御了承ノ上當方ノ之ニ対スル回答振リニ関シ何分ノ儀至急回答相成度此旨依頼申進ス

本信送付先 陸軍軍務局長

一九四五年二月二日附外務省宛在京瑞西公使館口上書

C. C. 二五四一 F G C 版款

瑞西公使館ハ帝國外務省ニ対シ米國政府ハ日本國政府ニ対シ左記通告ヲ依頼願ヒタル趣通
報スルノ光榮ヲ有ス

公使館ハ外務省ニ本作抗議ニ対スル帝國政府ノ回答ヲ通告マランコトヲ依頼シ此ノ機会ニ
於テ重ネテ外務省ニ敬意ヲ表ス

記

米國ハ俘虜收容所川崎支所第二號ニ收容セラレ居ル米國俘虜ニ対シ与ヘラレ居ル待遇ニ関
シ重大ナル関心ヲ有ス 彼等ノ受ケ居ル待遇ハ日本國政府カ俘虜ノ待遇ニツキ適用シツ、
アリト繰返シ主張シ来レル俘虜ニ関スル壽府條約ノ國際的ニ設定セラレクル人道的標準ニ
听ラカニ抵触ス 同政府ハ俘虜ノ收容セラレ居ル建物ハ單ニ不適當ニ保温セラレ居
ラズ建物ノ窓ハ一ホ木板ヲ以テ覆ハレ居ルヲ以テ採光通風共ニ遮断サレ居ル旨ノ信憑ス

ヘキ報告ヲ受ケタリ 俘虜條約第十條ハ俘虜ハ出来得ル限り衛生及保健ノ保證ヲ与ヘ得ル
建物ニ收容セラレヘキコト並ニソノ宿泊所ハ充分ニ保温及照明セラレサルヘカラサルコト
ヲ規定ス 又米國政府ハ患者ノ治療ニ欠クヘカラサル藥品 麻酔劑 繃帶及膏藥カ十分ナ
リス且必要ナル外科医療設備ニ欠クル如アル旨ノ報告ヲ受ケタリ 收容所に於ケル重症患
者カ事故ニヨル傷害ヲ治療スル必要ニ乏繼ミ藥劑ト外科設備ノ不足ハ人命ヲ危殆ナラシム
ルモノナリ 第十四條ハ各收容所ハ俘虜ノ必要トスルアラエル性質ノ手当ヲ受クヘキ医務
室ヲ有スヘキコトヲ規定ス 米國政府ハ更ニ又ハ養日ハ俘虜ニ対シ最不規則ニ与ヘラレ居
ル旨ノ警告ヲ受ケタリ 第三十條ハ俘虜ハ每週連続二十四時間ノ休養カ与ヘラレヘキ旨明
白ニ規定ス 而シテ最後ニ米國政府ハ公平ナル取柄カ有罪ヲ確定スル以前ニ懲罰カ俘虜ニ
与ヘラレ而モソノ懲罰ハ苛酷ニシテ徹底的ナルモノナルコトノ報告ヲ受ケタリ 第四十六
條ハ特ニ冰刑ヲ禁止ス 懲罰手段トシテ勞働條件ノ加重ハ第三十二條ニヨリテ禁止セラレ
第五十九條ノ規定ニヨリ懲罰ハ收容所長トシテ懲罰権ヲ有スル將校ニヨリテノミ与ヘラレ

ヘキモノナリ。米國政府ハ前記米國俘虜ノ待遇ニ対シテ抗議シ事態ヲ矯正スル爲速カニ措置セラルヘキコトヲ要求ス。同政府ハ更ニ此等ノ不法行爲ヲ匡正スヘク講セラレタル措置ノ報告ヲ本政府ニ通報セラルヘキコトヲ要求ス。

以 上

俘虜第二〇號

川崎收容所ニ於ケル米國俘虜ノ待遇ニ対スル米國政府抗議ニ関スル件

昭和二十年四月十日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

昭和二十年三月八日附居普通第一三二號ニヨル米國政府抗議ノ件左記ノ通回答ス

ヘキ報告ヲ受ケタリ。俘虜條約第十條ハ俘虜ハ未得ル限り衛生及保健ノ保證ヲ与ヘ得ル。建物ニ收容セラルヘキコト並ニソノ宿泊所ハ充分ニ保温及照明セラレサルヘカラサルコトヲ規定ス。又米國政府ハ若者ノ治療ニ欠クヘカラサル薬品、麻酔劑、繃帶及敷藥カ十分ナラス且必要ナル外科医療設備ニ欠クルル旨ノ報告ヲ受ケタリ。收容所ニ於ケル重症患者力事故ニヨル傷害ヲ治療スル必要ニモ鑑ミ藥劑ト外科設備ノ不足ハ人余ヲ危殆ナラシムルモノナリ。第十四條ハ各收容所ハ俘虜ノ必要トスルアラエル性質ノ手当ヲ受クヘキ医務室ヲ有スヘキコトヲ規定ス。米國政府ハ更ニ又休養日ハ俘虜ニ対シ最モ不規則ニ与ヘラレ居ル旨ノ報告ヲ受ケタリ。第三十條ハ俘虜ハ毎週連続二十四時間ノ休養カ与ヘラシムヘキ旨。明白ニ規定ハ。而シテ最後ニ米國政府ハ公平ナル取調カ有罪ヲ確定スル以前ニ懲罰カ俘虜ニ与ヘラレ而モソ。懲罰ハ苛酷ニシテ徹底的ナルモノナルコトノ報告ヲ受ケタリ。第四十六條ハ特ニ冰刑ヲ禁止ス。懲罰手段トシテ勞働條件ノ加重ハ第三十二條ニヨリテ禁止セララル。第五十九條ノ規定ニヨリ懲罰ハ收容所長トシテ懲罰権ヲ有スル將校ニヨリテノミ与ヘララル。

如キ侮辱的勞働ノ強制並ニ身体検査ヲ受ケ居レリトノ抗議アリタルニ付悉細石ニテ御了知
ノ上本件回答振ニ開シ何分ノ儀御回示相成度

別紙 (一)

三月四日附在京瑞西国公使館口上書板取文

瑞西国公使館ハ帝国外務省ニ対シ外交団員中ヨリ尋タル信用スヘキ待遇ニ依リ横濱ニ於ケ
ル俘虏カ公衆ノ面前ニ於テ侮辱的勞働(例ヘハ道路ノ清掃)ヲ強制セラレ居ル旨ヲ通告ス
ルノ光榮ヲ有ス

公使館ハ戻ニ俘虏ハ其ノ勞働終了シ彼等ノ宿舍ニ復歸スルニ際シ公衆ノ面前ニ於テ日本兵
ニ依リ日中何等カノ武器ヲ獲得セリヤヲ確ムル爲身体検査ヲセラル、旨開込ミタリ右状景
ハ毎日通行人殊ニ兒童ノ面前ニ於テ行ハル

公使館ニ於テハ右ハ横濱俘虏次長新長ノ誤解ニ基クモノナルコトヲ確信ス 俘虏ノ待遇ニ

開スル一九二九年七月二十七日ノ條約條ニ條ニ明確ニ定メラレタル通俘虏ハ「公衆ノ好奇
心ニ対シテ特ニ保護セラルヘシ」ト彼等ハ人間トシテノ体面ヲ損セシメラルヘキニ非ス 公
使館ハ依而外務省ニ対シ右事情ヲ日本軍当局ニ報知シ其ノ結果帝國政府ニ於テモ必スヤ壽
府條約ニ抵触シ居ルコトヲ認メラルヘキ事矣ヲ中止セシムル様訓令アリタル際ハ右ヲ公使館
ニ通牒セラレシコトヲ懇請ス

公使館ハ外務省ノ斡旋ニ対シ衷謝傍茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

別紙 (二)

俘虏第九号

俘虏取扱ニ関スル瑞西国公使館抗議ニ関スル件回答

昭和十九年三月二十日

俘虏情報司長官